

Endeavor

ST120

ユーザーズマニュアル

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録

Windows Vista


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。








障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
--	-------------------------------------










障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

⚠ 警告

	<p>交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>
	<p>破損した電源コードを使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
	<p>本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
	<p>通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>











警告

 	<p>水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。</p>
	<p>装置の増設・交換などをするときには、電源プラグをコンセントから抜いてください。 感電や火傷の原因となります。</p>
 	<p>小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。</p>
 	<p>付属のACアダプターを、分解・改造しないでください。 また、本機には、指定以外のACアダプターを使用しないでください。 感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプターまたは分解・改造したACアダプター（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。</p>

⚠ 注意

		小さなお子様の手の届くところに設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
		不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
		湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
		本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 <ul style="list-style-type: none">・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。・じゅうたんや布団の上などに設置しない。・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
		各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
		付属のACアダプターは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
		破損したACアダプターを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
		ACアダプターを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。
		ACアダプターの温度の高い部分に、長時間直接接触しないでください。 低温火傷の原因となります。
		メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
		マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。 強い光により、視覚障害の原因となります。

注意

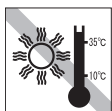
 	<p>ヘッドフォンやスピーカーは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。</p> <p>ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。</p>
 	<p>光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。</p>
 	<p>長時間または不自然な姿勢でのコンピューター操作は避けてください。肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。</p>
	<p>本機を移動する場合は、電源を切り、本機からすべての配線を取り外してください。</p>
	<p>連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
 	<p>本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。</p>

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。

特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプターなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



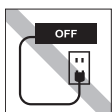
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎざぎざの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



本機の上には重い物を載せないでください（本機が横置きの場合は、5.5kgまでのディスプレイを載せることができます）。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



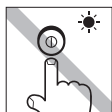
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



ACアダプターはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプターの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱いってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

<記憶メディアの種類>

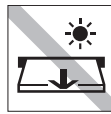
FD FD

CD 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに適用されます。



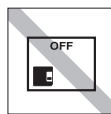
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



何度も読み書きしたFDは使わないでください。
 磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
 クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
 内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。
 レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



持ち運びの際は、マウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



落としたり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



レンズ部分に触れないでください。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	9

はじめに

マニュアル中の表記	14
本製品の仕様とカスタマイズ	18

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	20
本機を使い始めるまでの手順	20
ご使用前の確認事項	21
添付されているソフトウェア	22
本機でできること	24
各部の名称と働き	25
本体前面	25
本体背面	26
コンピューターの設置	27
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	37
Windowsが使用できるようになるまでの作業	37
電源を入れる前に	38
電源の入れ方とWindowsの起動	39
Windowsのセットアップ	40
初期設定ツール	42
セットアップ完了後の作業	44
Windows使用時の確認事項	45
Windows Vistaの使用方法	45
音量の調節	46
インフォメーションメニューを使う	46
Windowsの修復	48
復元ポイントを作成する	48
セキュリティ対策を行う	48
画面表示が消えたときは（省電力機能）	48
コントロールパネルの表示	49
フォルダーメニューの表示	50
ユーザーアカウントを作る	50
ユーザーアカウント制御画面	51
本機の終了方法	52
通常の終了（スリープ）	53
電源を切る（シャットダウン）	54
再起動	55
ハングアップしたときは	56

コンピューターの基本操作

キーボードを使う	58
キーの種類と役割	58
文字を入力するには	59
日本語を入力するには	59
キーロック表示ランプ	60
Fnキーと組み合わせて使うキー	60
キーボードからの起動	61
マウスを使う	62
マウスの操作	62
マウスの設定変更	62
HDDを使う	63
データのバックアップ	63
購入時のHDD領域	63
HDDを分割して使用する	64
HDDの暗号化	65
光ディスクドライブを使う（オプション）	66
使用可能な光ディスクメディア	66
光ディスクメディアのセットと取り出し	67
CDメディアの読み込み・再生	69
DVDメディアの読み込み・再生	69
光ディスクメディアへの書き込み	70
Nero 8 Essentialsの使い方	72
USB機器を使う	73
USB機器の接続と取り外し	73
画面表示機能を使う	75
ディスプレイの接続	75
表示に関する各種設定	76
表示できる解像度と表示色	77
表示装置に関する設定	78
画面表示の種類	79
画面表示の切り替え方法	80
サウンド機能を使う	82
オーディオ機器の接続	82
音量の調節	84
音声の再生・録音	84
サウンドユーティリティを使う	85
音声出力先の設定	86
ネットワーク機能を使う	87
ネットワークの構築	87
インターネットへの接続	87
Wakeup On LAN	88
リモートブート	89
インターネットに接続するには	90
接続するまでの流れ	90

接続方法の選択とプロバイダーとの契約 ...	90
インターネットに接続する	91
インターネットを使う上での注意	92
インターネットや電子メールを利用する ...	92
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ...	95
Windows Update	95
セキュリティソフトウェア	97
ファイアウォール	98
Windows Defender	99
フィッシング詐欺検出機能	99
Webフィルタリングソフトウェア	100
電源設定を行う（省電力機能を使う）	103
電源プランの設定	103
本機を省電力状態にする	104
省電力状態に移行する方法	107
その他の機能	110
シリアルコネクタ	110
インテル・アクティブ・マネジメント・ テクノロジー (AMT)	110
セキュリティロックスロット	111

システムの拡張

拡張できる装置	114
作業時の注意	115
本体カバーの脱着	116
本体カバーの取り外し・取り付け	116
メモリの装着	118
メモリの仕様	118
メモリの取り付け・取り外し	119
メモリの増設・交換後の作業	122

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	124
BIOS Setupユーティリティの操作	125
BIOS Setupユーティリティの起動	125
BIOS Setupユーティリティの操作	126
BIOS Setupユーティリティの終了	129
設定値を元に戻す	129
パスワードを設定する	131
HDDアクセス制限	133
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する ...	134
BIOS Setupユーティリティの設定項目	136
Mainメニュー画面	136
Advancedメニュー画面	138

Powerメニュー画面	139
Bootメニュー画面	141
Securityメニュー画面	142
Exitメニュー画面	143
BIOSの設定値	144

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ...	148
再インストールが必要な場合	148
重要事項	148
ソフトウェアの再インストールを行う	150
必要なメディア	150
再インストールの概要	150
インストールの順番	151
インストール作業における確認事項	152
Windowsのインストール	154
Windows Vistaをインストールする ...	155
リカバリツールのインストール	159
本体ドライバーのインストール	160
Adobe Readerのインストール	161
セキュリティソフトウェアのインストール ...	162
Webフィルタリングソフトウェアの インストール	162
マニュアルびゅうのインストール	164
WinDVDのインストール	165
Nero 8 Essentialsのインストール ...	165
JWord Pluginのインストール	166
gooスティックのインストール	166
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の インストール	167
その他のインストール	168
再インストール後の作業	169

こんなときは

トラブルが発生したら	172
困ったときに	173
コンピューター本体の不具合（起動時） ...	174
コンピューター本体の不具合	182
メモリの不具合	185
記憶装置の不具合	186
入力装置の不具合	189
表示装置の不具合	191
サウンドの不具合	192
ソフトウェアの不具合	193

システム診断ツールを使う	197
システム診断を実行する	197
トラブル時に役立つ機能	198
セーフモードでの起動	198
システムの復元	198
Windows回復環境 (Windows RE) を使う ...	200
警告メッセージが表示されたら	203

付録

お手入れ	206
本機のお手入れ	206
データのバックアップ	207
バックアップ方法	207
バックアップCDの作成	208
バックアップCDの作成方法	208

バックアップCDからインストールを行うには ...	209
電子マニュアルのダウンロード	210
ダウンロードできるそのほかのデータ ...	210
セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化 ...	211
HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	212
HDD領域を分割して使用する (概要) ...	212
Cドライブを分割・変更する	213
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	216
Cドライブ以外のドライブを削除する ...	219
リチウム電池の交換	220
CMOS RAMの初期化	223
コンピューターを廃棄するときは	225
HDDのデータを消去する	225
機能仕様一覧	227
索引	228

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	14
「本製品の仕様とカスタマイズ」	18

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。



1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は \overline{N} のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディア、Blu-ray Discメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista [®] Ultimate
	Windows Vista [®] Business
	Windows Vista [®] Home Premium
	Windows Vista [®] Home Basic

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1GB（ギガバイト）=1000MB として記載しています。

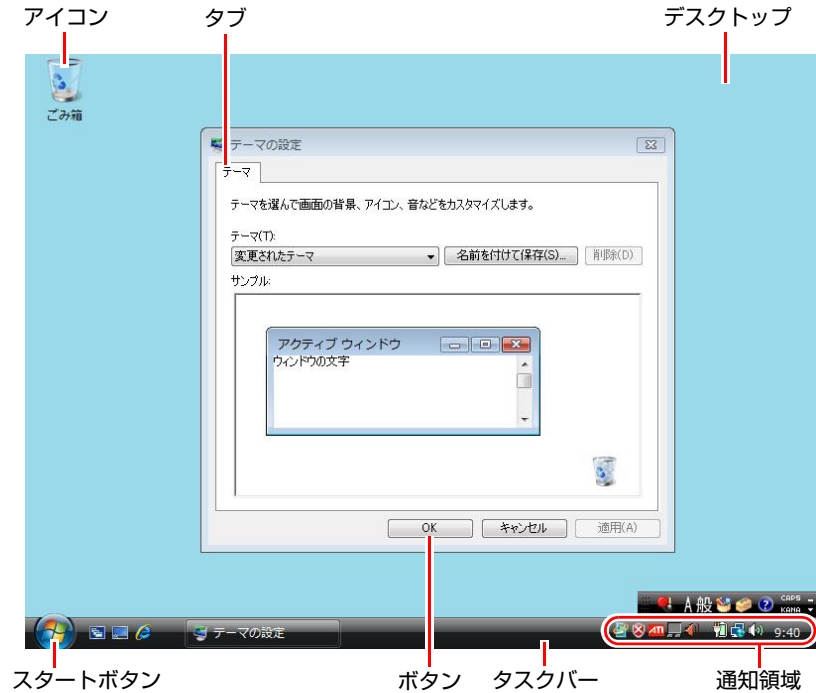
メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）=1024MB として記載しています。

Windows Vistaの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows Vistaの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例

[スタート] – [すべてのプログラム] – [Internet Explorer] をクリックします。

- 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから [すべてのプログラム] をクリックします。

(3) 表示されたメニューから [Internet Explorer] をクリックします。



<表示される項目は、システム構成によって異なります>

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様 オリジナルのコンピューターとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	: 1枚
HDD	: 1台 (シリアルATA)
光ディスクドライブ	: 1台 (シリアルATA)
ディスプレイ機能	: マザーボードの機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 106 PS/2 コンパクトキーボード
マウス	: ホイール付 USB オプティカルマウス

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されます。

お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピューターに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

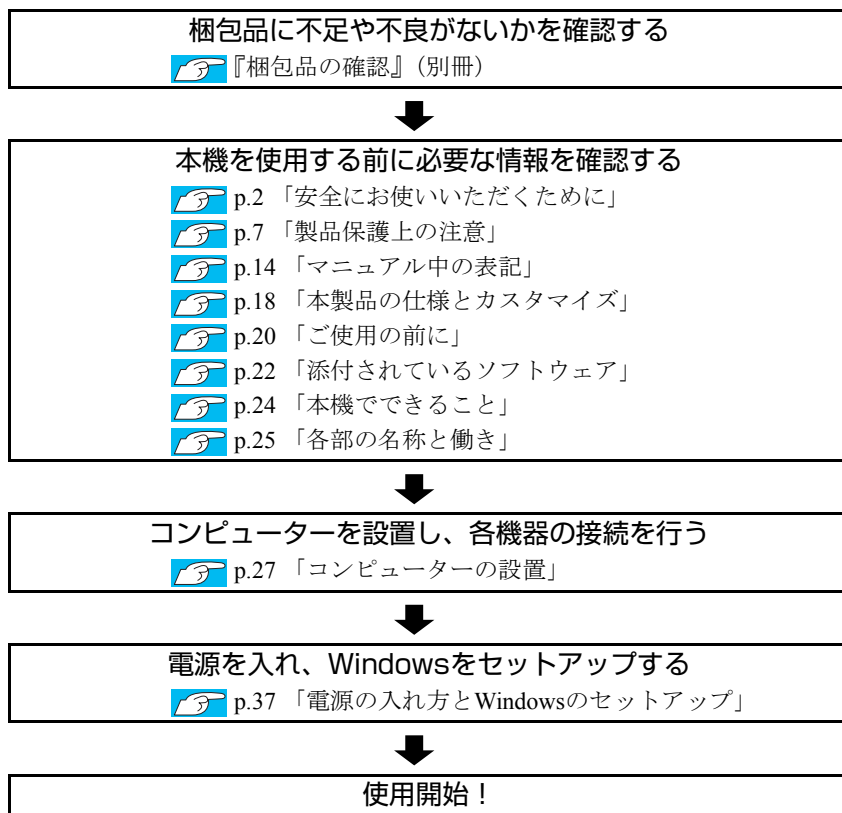
本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用前に」	20
「添付されているソフトウェア」	22
「本機でできること」	24
「各部の名称と働き」	25
「コンピューターの設置」	27
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	37
「Windows使用時の確認事項」	45
「本機の終了方法」	52

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

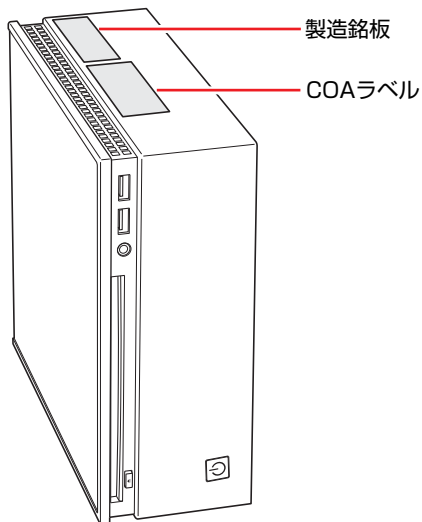
- 製造銘板

製造銘板には、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。製造銘板に記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内




『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア




購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のDVDまたはCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。  p.64 「消去禁止領域とは」


本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム (OS) です。 	 Windows VistaリカバリDVD
<ul style="list-style-type: none"> ● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。 	 リカバリツールCD
<ul style="list-style-type: none"> ● チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● インテルAMTドライバー AMT機能を使用するためのドライバーです。メモリ512MB1枚差しの場合は、インストールされていません。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ビデオドライバー マザーボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバーです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マニュアルびゅう 本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● WinDVD (光ディスクドライブ搭載時のみ) DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Nero 8 Essentials(書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	

必要に応じてインストールするソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。


 p.42 「初期設定ツール」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● i-フィルター 5 30日版 インターネット上の有害なWebページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	

その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

 p.197 「システム診断ツールを使う」

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。 	 リカバリツールCD



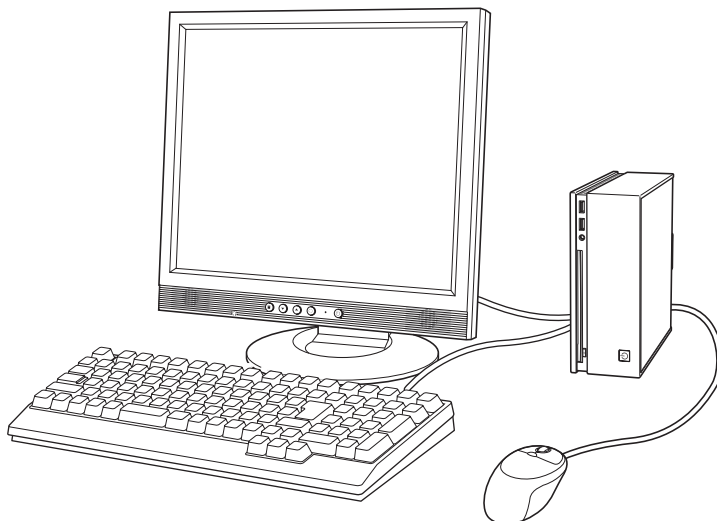
消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

 p.208 「バックアップCDの作成方法」

本機でできること

本機は小型の省スペースコンピューターです。
本機では、主に次のようなことができます。



インターネットやメールを利用する

 p.90

光ディスクを再生する、光ディスクに
データを保存する（オプション）

 p.66

ネットワークに接続する

 p.87

USB機器を使う

 p.73

省電力で使う

 p.103

ディスプレイを2台接続する

 p.75

メモリを増設・交換する

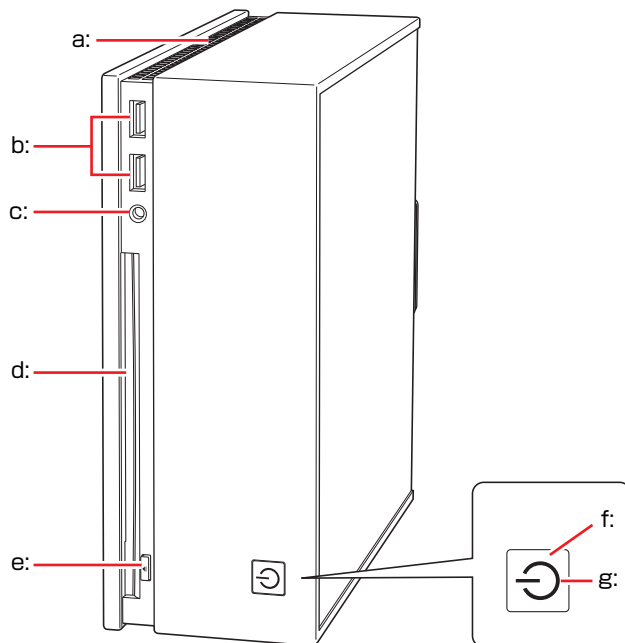
 p.118

サウンドの設定をする

 p.82

各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 通風孔

本機の内部で発生する熱を逃がします。反対側の面にもあります。

b: USBコネクタ

USB対応の機器を接続します。

c: ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンと接続して音声を出します。

d: 光ディスクドライブ (オプション)

光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います (光ディスクドライブにより使用できるメディアや機能は異なります)。

e: ドライブイジェクトボタン

光ディスクメディアの出し入れを行います。

f: 電源スイッチ

本機の電源の入/切を行います。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。

g: 電源ランプ/アクセスランプ

電源状態やドライブへのアクセスの状態を示します。

青色点灯: 通常

オレンジ色点灯: スリープ状態

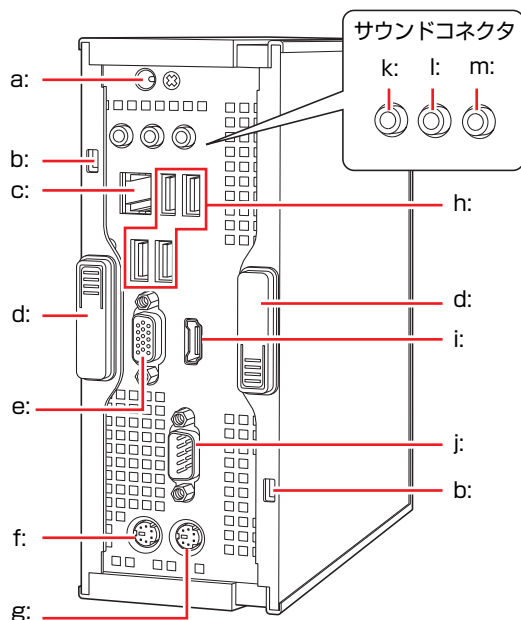
紫色点灯: HDDや光ディスクドライブへのアクセス中











消灯: 電源切断時または休止状態



アクセスランプが紫色に点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面

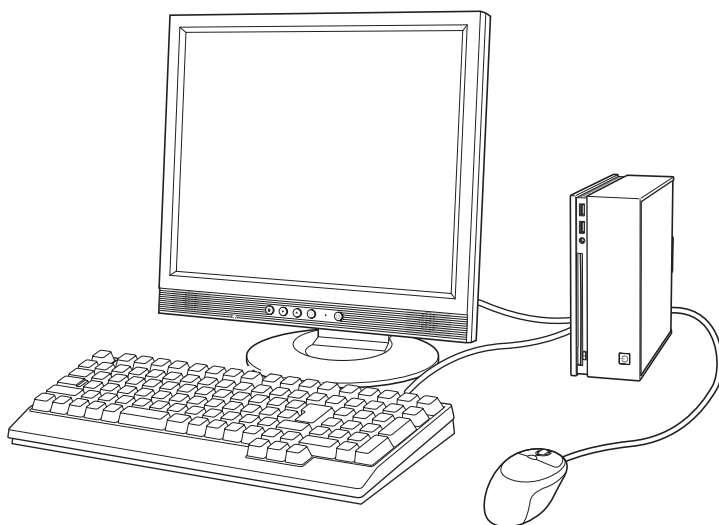


- | | |
|--|---|
| <p>a: ACアダプターコネクタ 
 付属のACアダプターを接続します。</p> <p>b: セキュリティロックスロット
 市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。</p> <p>c: LANコネクタ 
 LANケーブルを接続します。</p> <p>d: ラッチ
 本体カバーを固定します。</p> <p>e: VGAコネクタ 
 アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。</p> <p>f: マウスコネクタ（PS/2） 
 PS/2対応のマウスを接続します。</p> <p>g: キーボードコネクタ（PS/2） 
 キーボードを接続します。</p> <p>h: USBコネクタ 
 USB対応の機器を接続します。</p> | <p>i: HDMIコネクタ HDMI
 HDMI対応のディスプレイやテレビとHDMIケーブルで接続します。</p> <p>j: シリアルコネクタ 
 モデムなど、RS-232Cインターフェースに対応した装置を接続します。</p> <p>k: ライン入力コネクタ 
 オーディオ機器と接続して音声を入力します。</p> <p>l: ライン出力コネクタ 
 アンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。</p> <p>m: マイク入力コネクタ 
 マイクと接続して音声を入力します。</p> |
|--|---|

コンピューターの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンターなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。




1

設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- 付属のACアダプターを、分解・改造しないでください。
また、本機には、指定以外のACアダプターを使用しないでください。
感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
当社指定以外のACアダプターまたは分解・改造したACアダプター（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。
- 付属のACアダプターは、本機以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプターを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。
- ACアダプターを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。
- ACアダプターの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。
低温火傷の原因となります。

設置する

1 設置準備を行います。

(1) 縦置きにするか横置きにするかを決め、底面を確認します。

<縦置きにする場合>

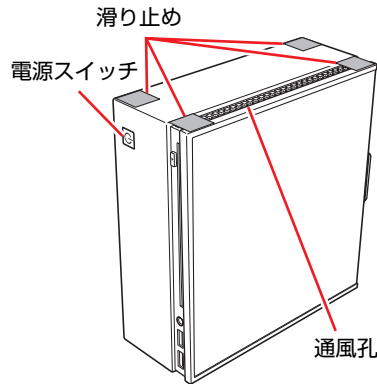
通風孔のある、電源スイッチに近い方の面を底面にしてください。

<横置きにする場合>

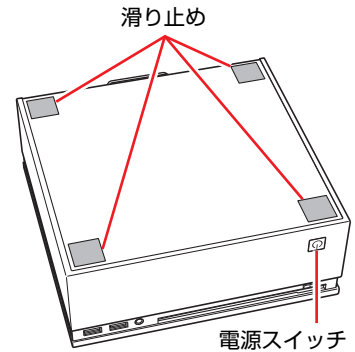
電源スイッチに近い方の面を底面にしてください。

(2) 必要に応じて滑り止めを貼ります。

電源ボタンを押した場合に本機が動くようなときは、底面になる部分に添付の滑り止めを貼り付けます。

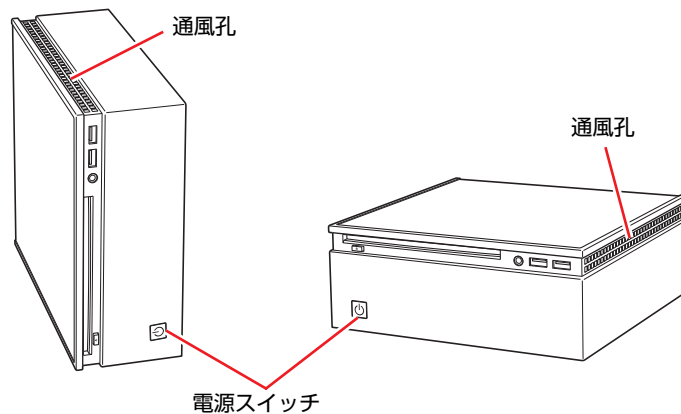


<縦置きにする場合>



<横置きにする場合>

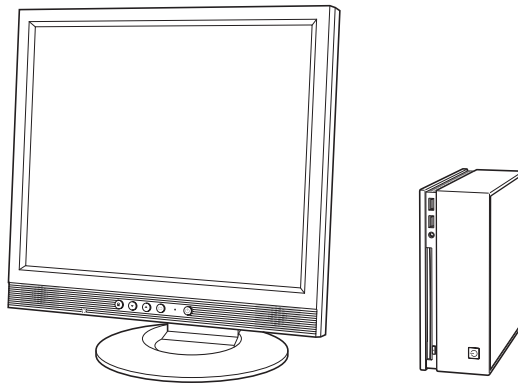
(3) 底面を下にして置きます。



制限

本機の上に載せられるディスプレイの重さは5.5kgまでです。5.5kgより重いディスプレイは載せないでください。またディスプレイのスタンド部分が本機の上に収まらない場合やディスプレイが不安定になる場合は、ディスプレイを本機の上に載せないでください。

- 2** 本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。
設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。



以降の各ケーブルを接続する手順は、本機を縦置きにした状態で説明しています。横置きの場合も、手順は同様です。

ディスプレイを接続する

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3 使用するディスプレイの接続方法を確認し、ディスプレイのケーブルを本機背面の該当するコネクタに接続します。

<HDMI接続の場合>

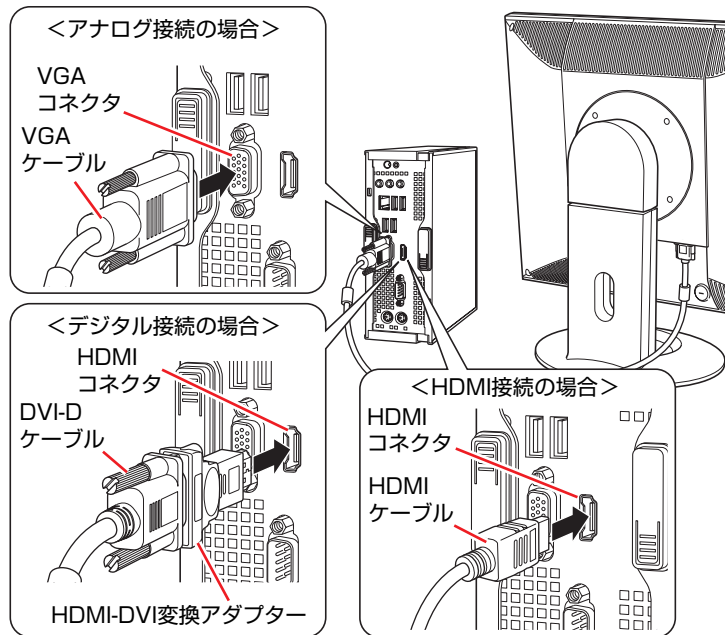
HDMIケーブルをHDMIコネクタに接続します。

<デジタル接続の場合>

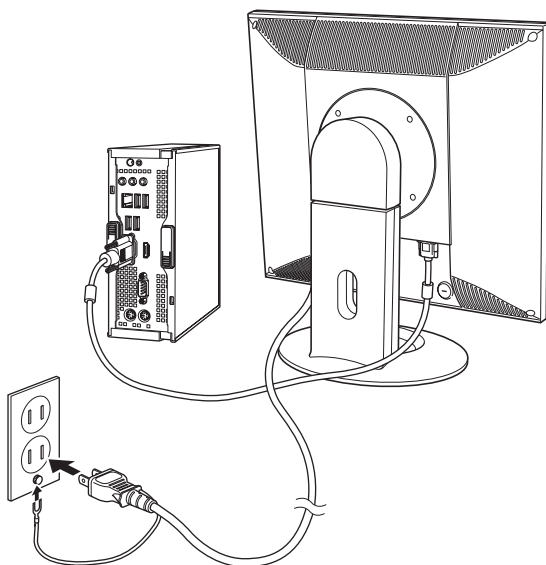
DVI-DケーブルにHDMI-DVI変換アダプターを取り付け、HDMIコネクタに接続します。

<アナログ接続の場合>

VGAケーブルをVGAコネクタに接続します。



4 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



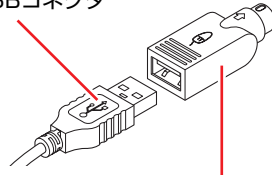
マウスを接続する

ここではホイール付USBオプティカルマウスの接続方法を説明します。購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

5 マウスを接続します。

ホイール付USBオプティカルマウスには、PS/2ポートアダプターが添付されています。

マウスのUSBコネクタ




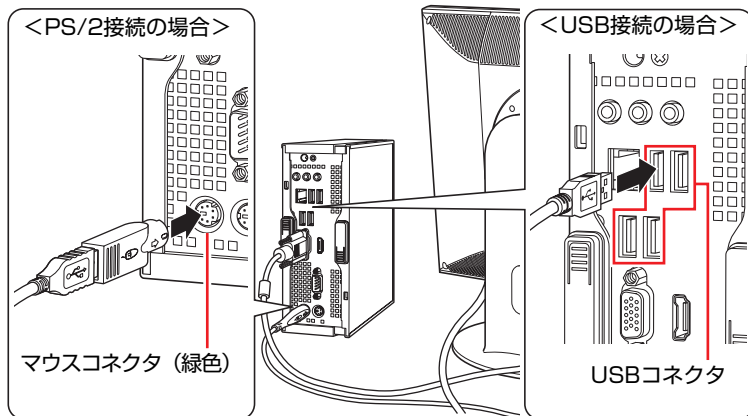
PS/2ポートアダプター

<PS/2接続の場合>


マウスケーブルのコネクタにPS/2ポートアダプターを取り付けた状態で、本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコネクタからPS/2ポートアダプターを取り外して、本機のUSBコネクタ（)に接続します。4つのUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



マウスを左利き用で使う場合は、Windowsのセットアップ後に設定します。

 p.62 「マウスの設定変更」

キーボードを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるキーボードにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

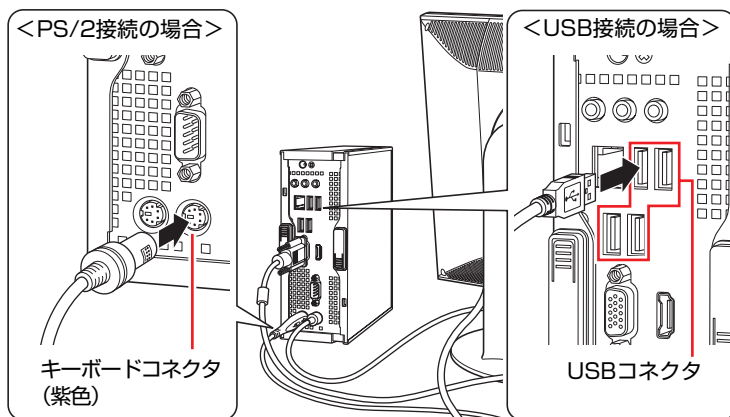
6 キーボードを接続します。

<PS/2接続の場合>

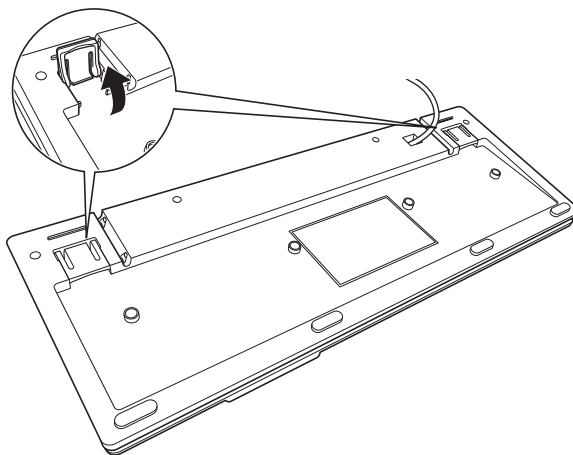
キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。

<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコネクタを本体背面のUSBコネクタ（)に接続します。4つのUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



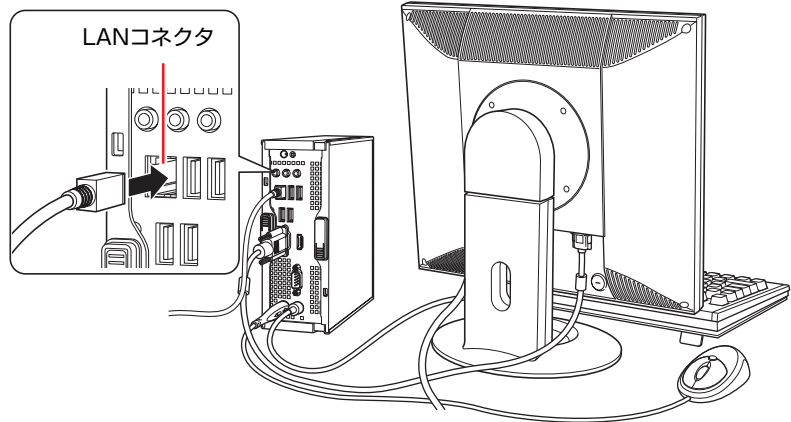
キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



ネットワークへ接続する

- 7** ネットワークを使用する場合は、市販のLANケーブルを本機背面のLANコネクタ（品）に接続します。

インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダーから提供されたマニュアルをご覧ください。



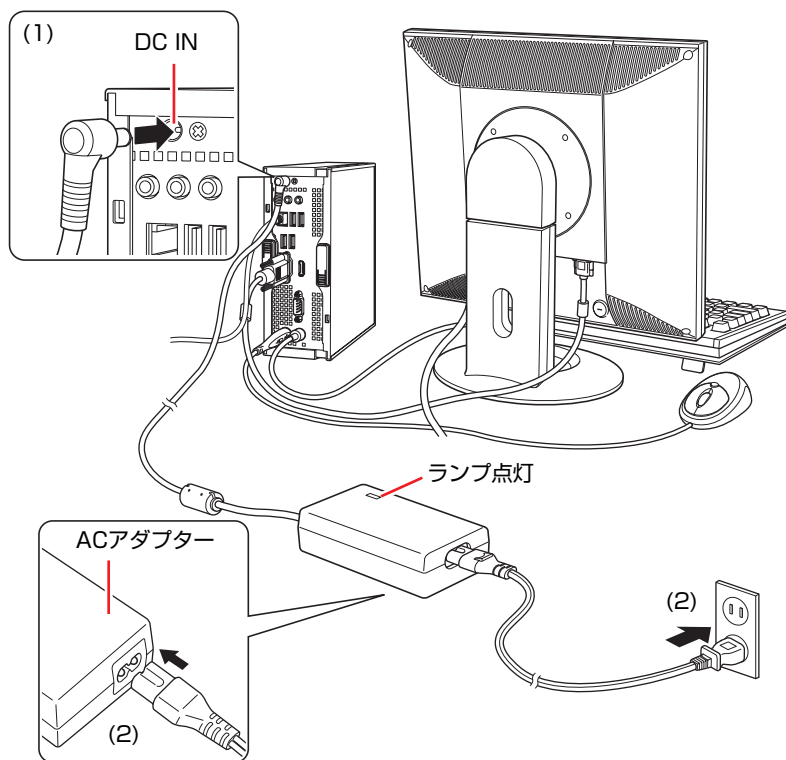
ACアダプターを接続する

8 ACアダプターをコンピューターと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプターのプラグ部を本機背面のACアダプターコネクタ ($\frac{DC}{12V}$) に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプターと家庭用電源コンセントに接続します。



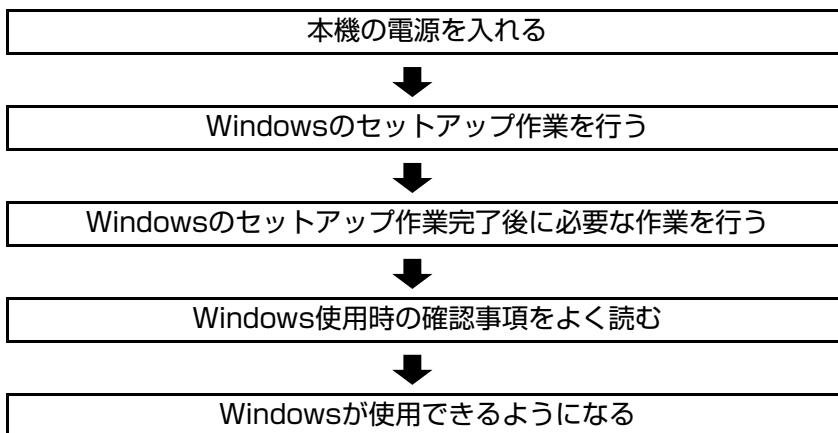
これで本機の設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピューターが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

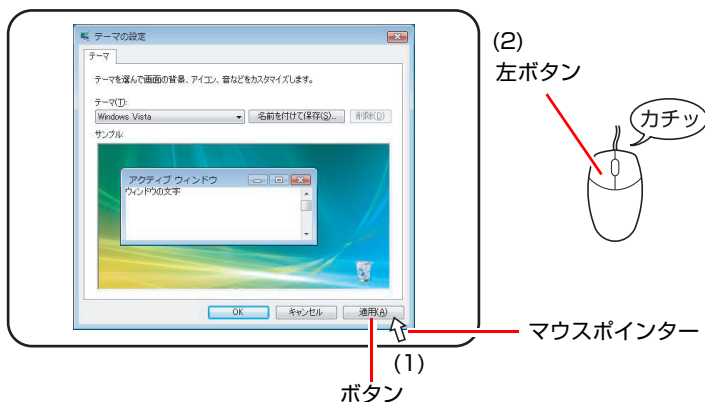
マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- マウスポインターを動かす
マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインターもマウスを動かした方向に動きます。



- ボタンをクリックする
 - (1) マウスを動かして、マウスポインターを画面のボタンの上に重ねます。
 - (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。
この動作を「クリック」と言います。
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動

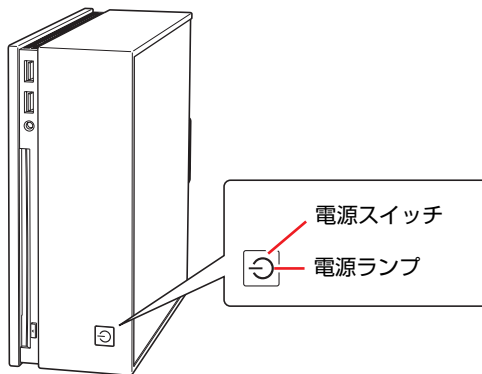
本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1 ディスプレイやスピーカーなどの電源を入れます。

2 電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ (⏻) が青色に点灯します。

電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。



3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

画面に何も表示されない場合はディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続いて、Windowsのセットアップを行います。

 p.40 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的に「Windows Vistaセットアップ」が実行されます。画面の指示に従ってセットアップを行ってください。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

次のように表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。

国または地域：日本

時刻と通貨の形式：日本語（日本）

キーボードレイアウト：Microsoft IME



ライセンス条項をお読みになってください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。



ユーザー名と画像の選択

ユーザー名、パスワードを入力し、画像を選択したら、[次へ] をクリックします。

※「パスワード」は必要に応じて入力してください。

パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。



コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください

コンピュータ名を入力し、背景を選択したら、[次へ] をクリックします。

※ コンピューター名は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合に必要です。

- ネットワークに接続しない場合は、セットアップ時にコンピューター名を変更する必要はありません。
- ネットワークに接続する場合は、ネットワーク上にあるほかのコンピューター名と重複しないように、コンピューター名を変更してください。




Windowsを自動的に保護するよう設定してください

保護の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

※ 「推奨設定を使用します」を選択すると、Windows Updateが自動で行われるようになります。

 p.95 「Windows Update」



時刻と日付の設定の確認

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、[次へ] をクリックします。



お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください

ネットワークに接続している場合、表示されます。
使用する場所を選択します。



ありがとうございます

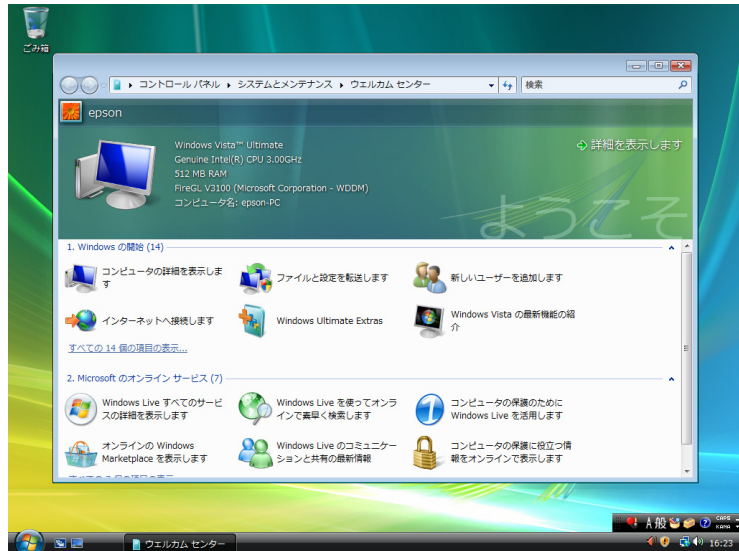
[開始] をクリックします。デスクトップ画面が表示されるまで、約5分かかります。



デスクトップ画面の表示

Windows Vistaのデスクトップ画面が表示されます。


※パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。



<イメージ>

これでWindows Vistaのセットアップは完了です。

続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

 p.42 「初期設定ツール」

参考

ライセンス認証について

購入時の本機にインストールされているWindows Vistaや、「Windows VistaリカバリDVD」から再インストールを行ったWindows Vistaは、ライセンス認証を行う必要がありません。

▶初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。




<イメージ>

画面の記載事項はすべてお読みください。スクロールバーのノブを一番下まで移動させて、すべての内容を表示させないと、[次へ] はクリックできません。

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。次回Windowsを起動したときに「i-フィルター・・・」画面が表示されたら、セットアップを行ってください。

 p.163 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」


i-フィルター 30日版の使用方法は、 p.100 「i-フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、次のソフトウェアをインストールします。


● Norton Internet Security 90日版


本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。Norton Internet Security 90日版の使用方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

本機に標準添付の「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をインストールします。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、インストール完了後にユーザー登録を行う必要があります。

 p.167 「ユーザー登録」

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」の使用方法は、 p.94 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

「お薦めソフトウェア」画面

「お薦めソフトウェア」画面では、必要に応じて次のソフトウェアをインストールします。

● JWord

「JWord」を使うと、Internet Explorerのアドレスバーを利用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。

● gooスティック

「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールすると、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

参考

初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。


【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【初期設定ツール】

▶セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールでの作業が完了したら、次の作業を行います。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

 p.87 「ネットワーク機能を使う」

Windows使用時の確認事項


「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

▶ Windows Vistaの使用方法

Windows Vistaの使用方法は、次をご覧ください。

● ヘルプとサポート


「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

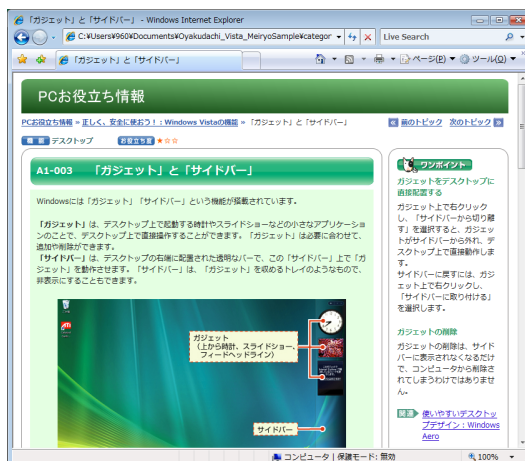
[スタート] () - 「ヘルプとサポート」



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

 p.46 「インフォメーションメニューを使う」



▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかつたり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。

 p.84 「音量の調節」

▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は、次のとおりです。

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする



- スタートメニューから起動する

インフォメーションメニューが起動すると次の画面が表示されます。



参考

マニュアルびゅうわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅうわ」からPDFマニュアルを起動する場合に、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは、「同意する」をクリックしてください。

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

- マニュアルびゅうわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 8 Essentials」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。



参考

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとする、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- PCお役立ち情報

コンピューターに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピューターを使用する際の参考にしてください。

- とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。



p.172 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポート

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバー、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。



p.210 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。


- **トラブルが解決しなかったら**

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合をご覧ください。

▶ Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。


Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。

 p.200 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶ 復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。


復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.199 「復元ポイントを手動で作成する」

▶ セキュリティ対策を行う


本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.95 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶ 画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.109 「省電力状態からの復帰方法」

▶コントロールパネルの表示

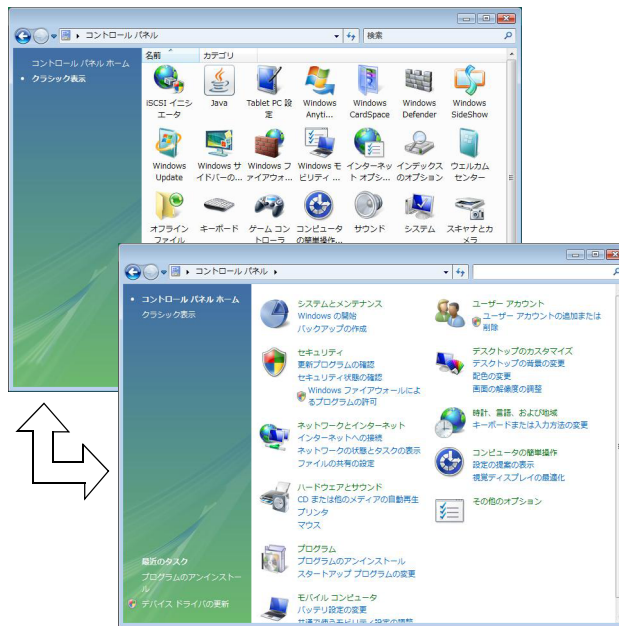
コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- カテゴリーの表示（コントロールパネルホーム）
項目をカテゴリごとにまとめて表示します（購入時の設定）。
- クラシック表示
項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリーの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>

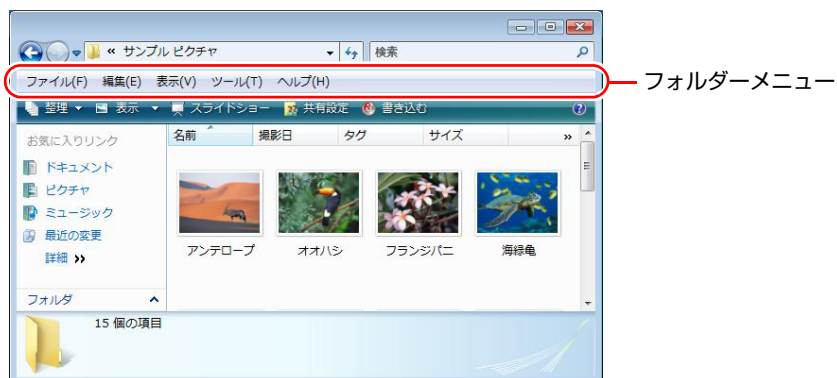


<カテゴリーの表示>

▶フォルダーメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューが標準では表示されません。

フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]**を押します。もう一度**[Alt]**を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

- 1 【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【デスクトップのカスタマイズ】 - 【フォルダオプション】 - 【表示】タブ - 【常にメニューを表示する】にチェックを付けます。

▶ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【ユーザーアカウント（と家族のため安全設定）】 - 【ユーザーアカウント】 - 【別のアカウントの管理】 - 【新しいアカウントの作成】

アカウント権限は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

● 管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

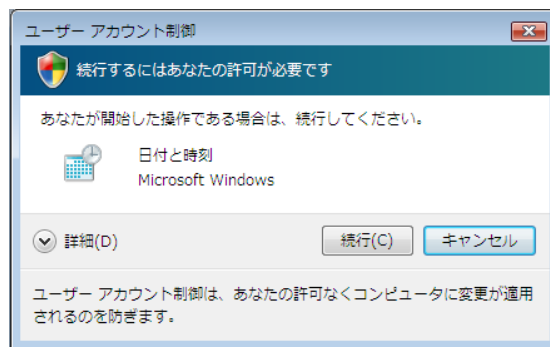
購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

● 標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールを行うことができません。管理者パスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたら、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようとする、**「ユーザーアカウント制御」**画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。




表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、アカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでWindowsにログオンした状態を前提に記載しています。

本機の終了方法


ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）

通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。


 p.53 「通常の終了（スリープ）」

スリープ状態にすると、作業内容がメモリとHDDに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープ状態についての詳しい説明は、 p.105 「省電力状態の種類」をご覧ください。

● 電源を切る（シャットダウン）

次のような場合は、本機の電源を切って終了します。

 p.54 「電源を切る（シャットダウン）」

- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器の取り付け、取り外しをするとき



Windowsをロックする

一時的に席を外す場合は、[スタート] – [🔒] をクリックしてWindowsをロックしておくと、コンピューターを他人に操作されるのを防ぐことができます。

ロックをするには、事前にパスワードの設定が必要です。

ロックについての詳しい説明は、次をご覧ください。



「インフォメーションメニュー」– 「PCお役立ち情報」– 「コンピュータの基本操作」

▶通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法とスリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

- 1 **【スタート】（）－【】をクリックします。**
本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプがオレンジ色に点灯します。



ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。



- ・【スタート】－【▶】－「スリープ」をクリックする

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。



復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

- 1 **電源スイッチ（）を押します。**
本機が通常状態に復帰します。
PS/2キーボードをお使いの場合、キーボードのキーを押して、復帰させることもできます。
 p.61 「キーボードからの起動」

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源の切り方と入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。



- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプが紫色に点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

- 1** [スタート] - [▶] - 「シャットダウン」をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 2** ディスプレイなど接続している周辺機器の電源を切ります。



[⏻] をクリックしたときシャットダウンするように設定する
[スタート] - [⏻] をクリックしたときシャットダウンするように、ボタンの機能を変更することができます。
設定は次の場所で行います。

[スタート] - [コントロールパネル] - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「プラン設定の変更」 - 「詳細な電源設定の変更」 - 「電源ボタンとLID」 - 「[スタート] メニューの電源ボタンの操作」


シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は [いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってからシャットダウンをしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。




- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
電源を入れるタイミングがコンピューターより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.134 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

PS/2キーボードをお使いの場合、キーボードのキーを押して、電源を入れることもできます。

 p.61 「キーボードからの起動」

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 【スタート】 - 【▶】 - 「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 4** 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「すぐに終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

第2章 コンピューターの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、本機の基本
的な操作方法について説明します。

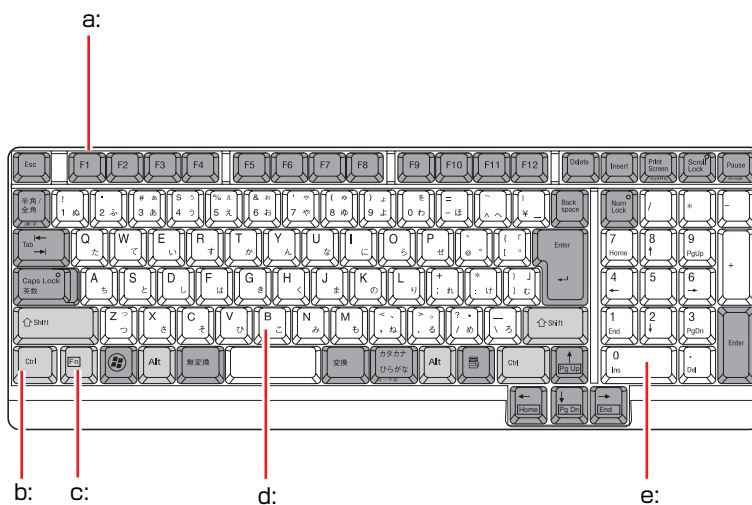
「キーボードを使う」	58
「マウスを使う」	62
「HDDを使う」	63
「光ディスクドライブを使う（オプション）」	66
「USB機器を使う」	73
「画面表示機能を使う」	75
「サウンド機能を使う」	82
「ネットワーク機能を使う」	87
「インターネットに接続するには」	90
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	95
「電源設定を行う（省電力機能を使う）」	103
「その他の機能」	110

キーボードを使う

ここでは、日本語対応106 PS/2コンパクトキーボードについて説明します。キーボードの接続方法は、[p.27](#)「コンピューターの設置」をご覧ください。購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割はソフトウェアによって異なります。

b: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

c: Fnキー

制御キーの1つです。


[p.60](#) 「Fnキーと組み合わせて使うキー」

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。

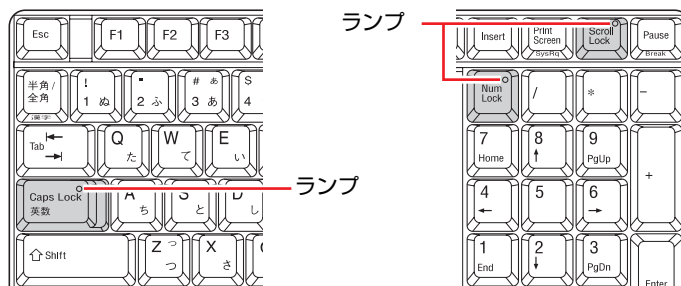
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock 上にはキーロック表示ランプがあります。



ランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	Num Lock を押す
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの ← ↑ Home などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	Shift + Caps Lock を押す
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	Scroll Lock を押す


▶Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、Fn と組み合わせると、次のように使用することができます。

Fn + PgUp	PgUp (Page Up) の役割をします。
Fn + Home	Home (ページの先頭へ移動) の役割をします。
Fn + PgDn	PgDn (Page Down) の役割をします。
Fn + End	End (ページの最後へ移動) の役割をします。

▶キーボードからの起動

PS/2キーボードでは、**Ctrl** + **Esc** を押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる
 p.109 「省電力状態からの復帰方法」




- この機能は、USB接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。
- 一度 AC アダプターを抜いて接続しなおした場合、**Ctrl** + **Esc** からの起動ができなくなることがあります。

<Powerキーのあるキーボードの場合>

本機はPowerキー (⏻) からの起動はできません。

マウスを使う

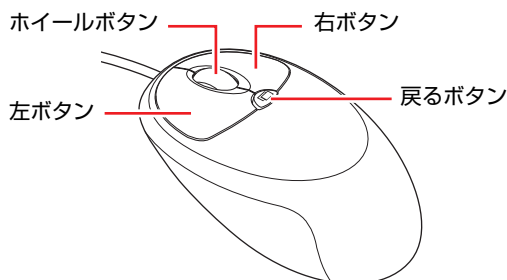
ここでは、ホイール付USBオプティカルマウスについて説明します。マウスの接続方法は、 p.27 「コンピューターの設置」をご覧ください。購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorerやエクスペローラなどで「戻る」の操作を行うことができます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

HDDを使う

本機には、シリアルATA仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。




- アクセスランプが紫色に点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピューターがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが破損するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

2

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.207 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

HDDの台数は、購入時の選択により異なります。

<通常>

HDDの台数	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2.7GB
	BitLocker：Dドライブ (Windows Vista Ultimateのみ)	約1.5GB
	Cドライブ	残り
2台目	DまたはEドライブ*	2台目すべて

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

HDDの台数	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2.7GB
	BitLocker：Dドライブ (Windows Vista Ultimateのみ)	約1.5GB
	Cドライブ	購入時に選択された容量
	DまたはEドライブ*	残り
2台目	EまたはFドライブ*	2台目すべて

*ドライブ名はWindowsの種類により異なります。

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことで、す。

消去禁止領域とは


「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」内の本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

 p.208 「バックアップCDの作成」

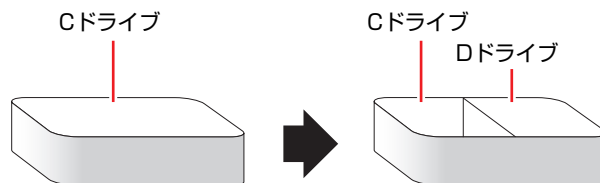
Windows REの詳細は、 p.200 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。


▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。
詳しくは、 p.213 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

▶HDDの暗号化

<Windows Vista Ultimate使用時>

Windows Vista Ultimateでは、HDD暗号化機能「BitLocker」を使用することができます。

BitLockerの使用方法は、当社ユーザーサポートページのサポート情報をご覧ください。

アドレスは次のとおりです。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/redirect.htm?content=BitLocker>



参考

BitLockerとは

BitLockerは、HDD内のドライブを暗号化するツールです。Windows Vista Ultimate、Windows Vista Enterpriseのみに搭載されています。

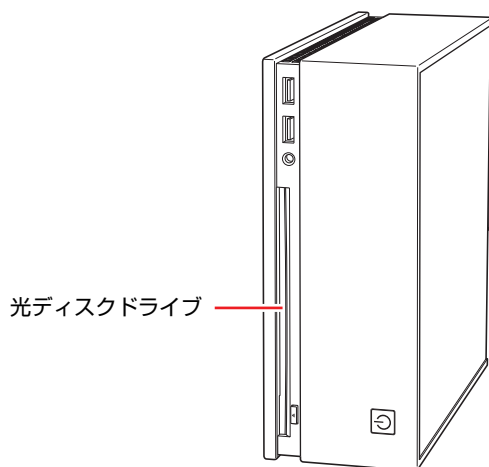
ドライブを暗号化することで、第三者がWindowsを不正に起動したり、HDD内のデータが漏洩したりすることを抑止することができます。

光ディスクドライブを使う (オプション)

購入時にオプション選択された場合、本機にはシリアルATA仕様の光ディスクドライブが搭載されています。

光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



本機では、CD (コンパクトディスク) の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、光ディスクドライブのマニュアル (PDF) をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

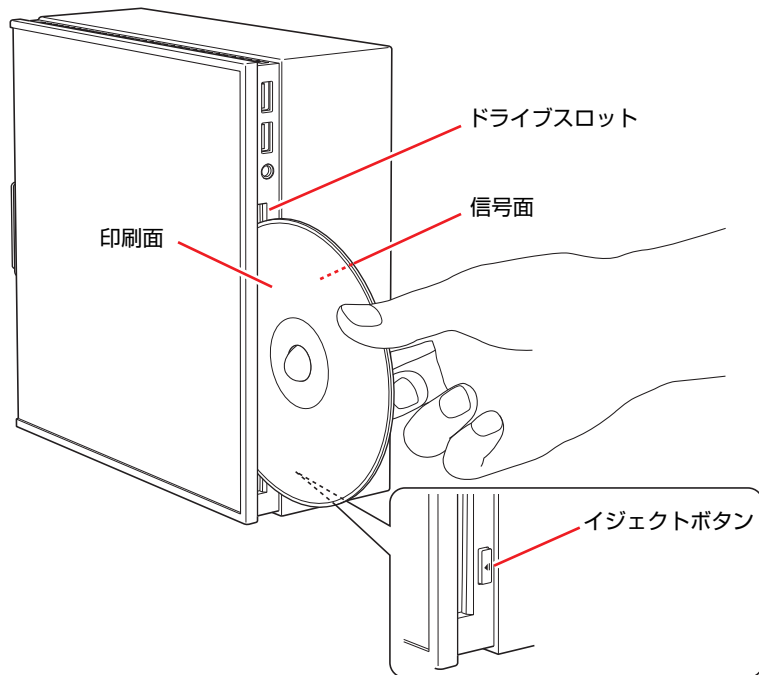
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



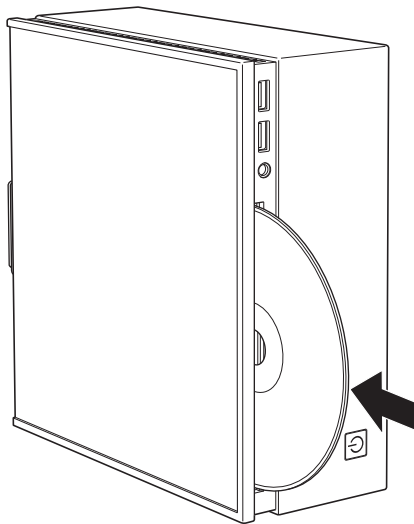
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、8cmのメディアは使用できません。また、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 光ディスクメディアの信号面（文字などが印刷されていない面）をイジェクトボタン側に向け、ドライブスロットにセットします。

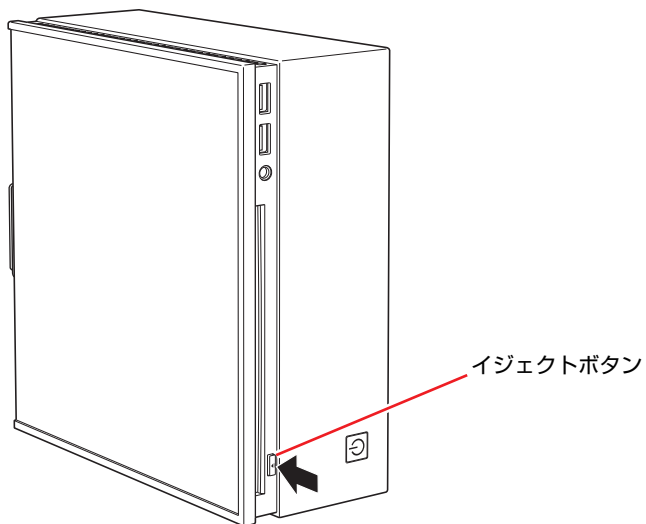


- 2** 光ディスクメディアをドライブスロットに押し込みます。

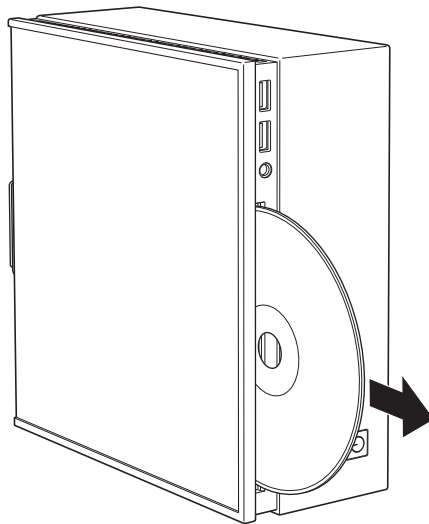


取り出し方法

- 1** イジェクトボタンを押します。
光ディスクメディアが出ます。



2 光ディスクメディアを取り出します。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。

再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には、「WinDVD」を使用します。

WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート] – [すべてのプログラム] – [Inter Video WinDVD] – [Inter Video WinDVD for EPSON]


WinDVDの詳しい使用 방법은、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の不具合

WinDVDでDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。


- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.76 「表示に関する各種設定」

 p.78 「リフレッシュレートの設定」

- 本機にディスプレイを2台接続して、クローンモードで表示していると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。

 p.79 「画面表示の種類」

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。


「インフォメーションメニュー」 – 「マニュアルびゅーわ」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時、本機にはライティングソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされています。

 p.72 「Nero 8 Essentialsの使い方」


書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.107 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのマニュアル(PDF)をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」

▶ Nero 8 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 8 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



「Nero 8 Essentials」と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 8 Essentialsを起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

Nero 8 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。


- 「インフォメーションメニュー」 - 「PCお役立ち情報」 - 「CD/DVD/BDを使う」
- 「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「Neroユーザーガイド」

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



制限

- USBフラッシュメモリなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入ると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.134 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」
- 本機の電源コードが接続されている状態では、USBポートに5Vの電力が常に供給されています。お使いのUSB機器などによっては、本機の電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。

2

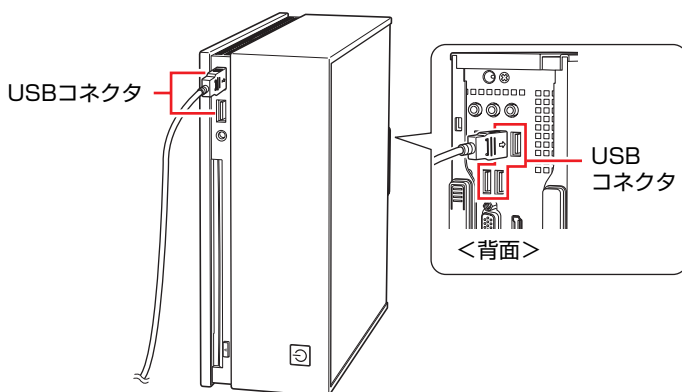
▶ USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ (⇄) に接続します。



- 2 USB機器によっては、画面右下の通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



<取り外しアイコン>


接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくはUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- **そのまま取り外す**
本機の電源を切ると、そのまま取り外せます。
- **USB機器の終了処理をして取り外す**
画面右下の通知領域にある「取り外し」アイコンから終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

- 1 開いているファイルを閉じます。**
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。
 - 2 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**
 - 3 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) - - - を安全に取り外します」を選択します。**
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。
- 
- The image shows a Windows notification bar with a red circle highlighting the text: "USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します".

- 4 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB機器を本機から取り外します。**


画面表示機能を使う

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.198 「セーフモードでの起動」

2

▶ディスプレイの接続

接続できるディスプレイの種類


本機には、VGAコネクタとHDMIコネクタの2つのコネクタが搭載されています。
ディスプレイの接続方法は、次のとおりです。


接続方法	接続するコネクタ
HDMI接続	HDMIコネクタ
デジタル接続	HDMIコネクタ (HDMI-DVI変換アダプター使用)
アナログ接続	VGAコネクタ

ディスプレイの接続

ディスプレイの仕様に合わせて、ディスプレイと本機を接続します。本機では、ディスプレイを2台同時に接続することもできます。

ディスプレイの接続は、本機とディスプレイの電源を切ってから行ってください。

 p.31 「ディスプレイを接続する」

ディスプレイの表示の切り替え方法は、 p.80 「画面表示の切り替え方法」をご覧ください。

参考

プロジェクターの接続

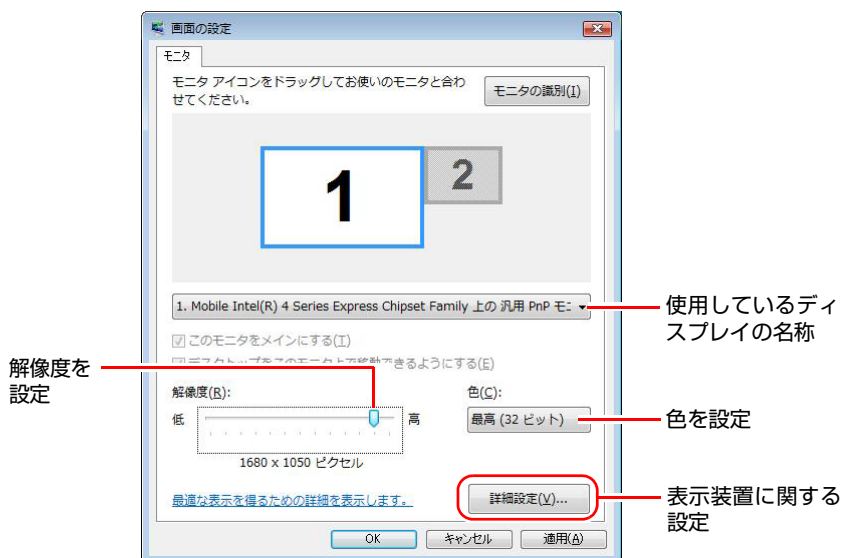
本機には、プロジェクターを接続することもできます。

詳しくはプロジェクターに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は「画面の設定」の「モニタ」タブで行います。
「画面の設定」は次の場所にあります。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」
- 「個人設定」 - 「画面の設定」



▶表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 解像度 ピクセル（横×縦）

800×600

1024×768

1280×768*

1280×1024

1440×900*

1600×1200（アナログのみ）

1680×1050*

1920×1080*（HDMIのみ）

1920×1200*（アナログのみ）

* ワイド表示

- 表示色

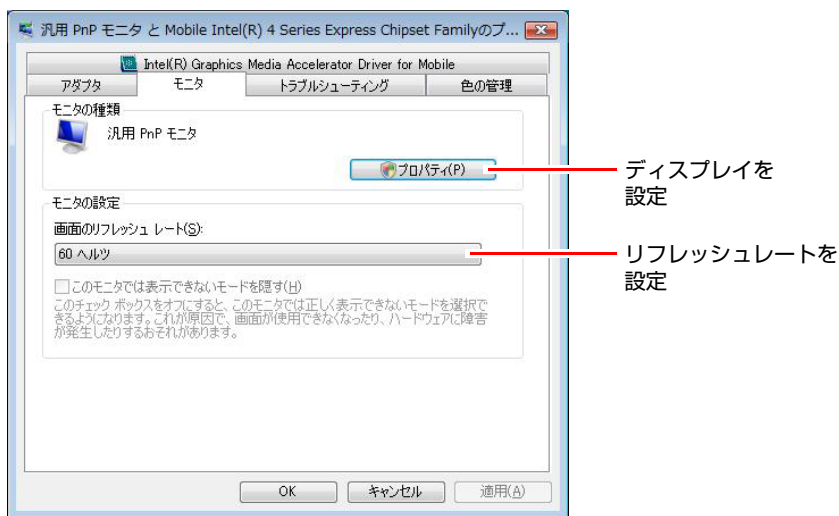
中（16ビット） / 最高（32ビット）



- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- 解像度の異なるディスプレイを2台接続してクローンモードにした場合、低い方の解像度で表示されます。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

▶表示装置に関する設定

画面の設定の[詳細設定]—「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

▶画面表示の種類

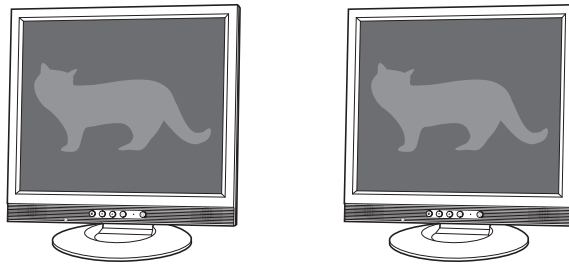
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

- シングルディスプレイモード

1つのディスプレイに表示します。

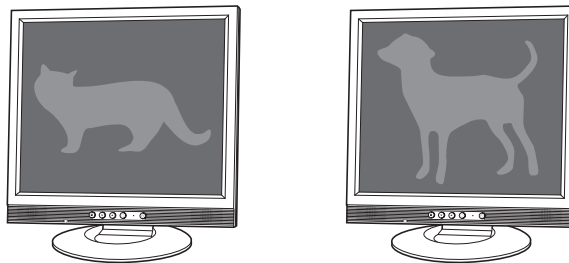
- クローンモード

2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



- 拡張デスクトップモード


2つのディスプレイに対して、個別に設定することができます。複数の画面をコンピューター上に表示する場合に便利です。



▶画面表示の切り替え方法

ディスプレイの表示を切り替える方法は、次のとおりです。

ディスプレイ2台に表示する場合は、本機にディスプレイを2台接続してから切り替えを行ってください。


 p.31 「ディスプレイを接続する」

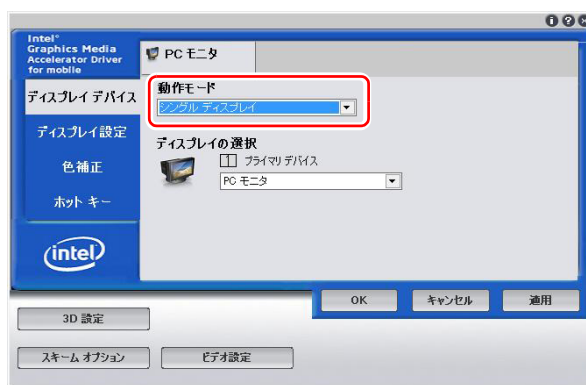
- 1 通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリックし、「グラフィックプロパティ…」を選択します。



<Intel(R) Graphics Media Accelerator Driverアイコン>

- 2 「Intel® Graphics Media Accelerator Driver」画面が表示されたら、「動作モード」でディスプレイの表示方法を選択します。

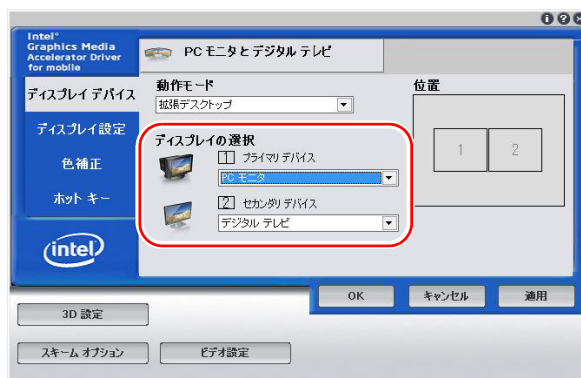
 p.79 「画面表示の種類」



- 3 手順2で「拡張デスクトップ」を選択した場合は、次の設定を行います。

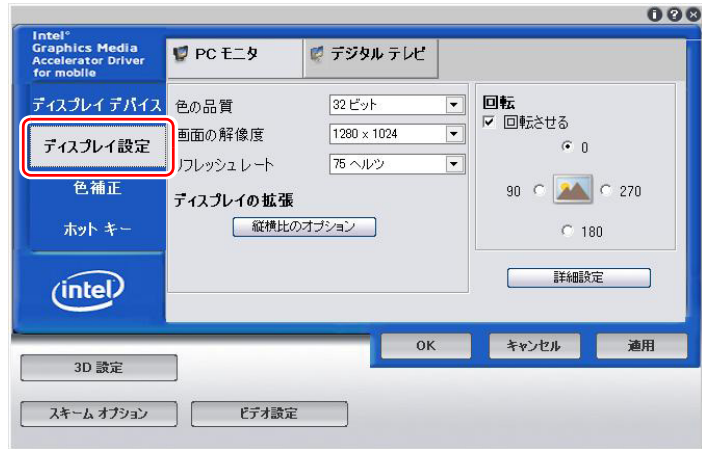
(1) 「ディスプレイの選択」でディスプレイの設定を行います。

「プライマリデバイス」側のディスプレイには、[スタート]メニューやタスクバーが表示されます。



(2) デスクトップの設定をします。

「ディスプレイ設定」をクリックし、「PCモニター」タブまたは「デジタルテレビ（デジタルディスプレイ）」タブで解像度などを設定します。

**4** [OK] をクリックします。**5** 「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
これで画面の切り替えは完了です。**グラフィックオプションから設定する**

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行うことができます。

通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリック
－「グラフィックオプション」－「出力先」

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

内蔵モノラルスピーカー

本機には、モノラルスピーカーが内蔵されています。このため、外部スピーカーを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。



オーディオ機器を接続した場合

ヘッドフォン出力コネクタやライン出力コネクタ、HDMIコネクタに、オーディオ機器を接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカーの機能は自動的に無効になります。

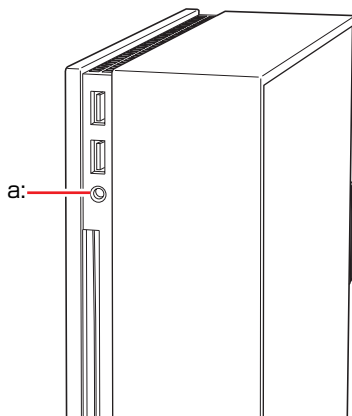
▶オーディオ機器の接続

本機には、スピーカーやマイクなどのオーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。

オーディオ機器の接続方法は、オーディオ機器に添付のマニュアルをご覧ください。

前面側

本機前面のサウンドコネクタは次のとおりです。

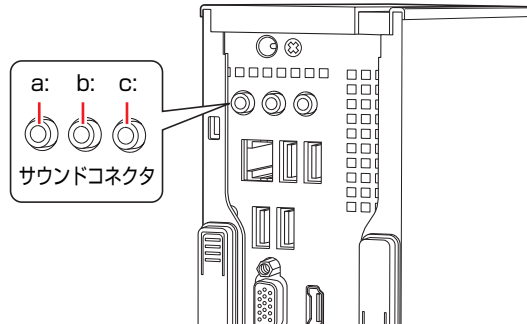


a: ヘッドフォン出力コネクタ (○)

スピーカーやヘッドフォンと接続して音声を出力します。

背面側

本機背面のサウンドコネクタは次のとおりです。



a: ライン入力コネクタ (青色)

オーディオ機器と接続して音声を入力します。

b: ライン出力コネクタ (黄緑色)

アンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。

c: マイク入力コネクタ (ピンク色)

マイクと接続して音声を入力します。

参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピューターから、電源供給するタイプ

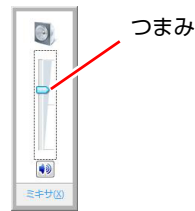
▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン（白色）をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン>



<ボリュームコントロール>

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。「Windows Media Player」は、次の場所から実行します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は、「サウンドレコーダー」を使用します。「サウンドレコーダー」は、次の場所から実行します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「サウンドレコーダー」

録音ボリュームの変更は「サウンドユーティリティ」の「マイク」タブで行います。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



<サウンドユーティリティアイコン>

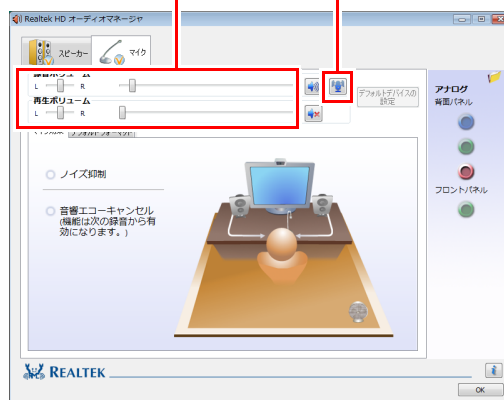
次の画面が表示されます。




マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

マイクで録音・再生時の
音量を調節 マイクブーストの設定



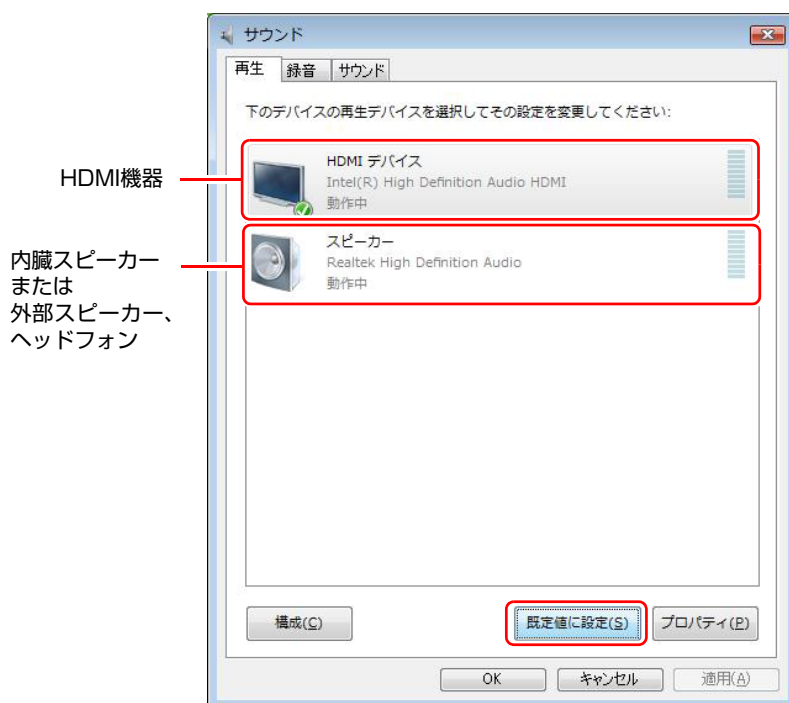
※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

▶音声出力先の設定

本機にHDMI機器を接続した場合、音声出力先をHDMI機器かスピーカーのどちらかに設定することができます。

- 1 「スタート」－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「サウンド」をクリックします。
- 2 「サウンド」画面が出力されたら、「再生」タブで音声出力するデバイスを選択し、「既定値に設定」をクリックします。



音声出力先に設定されると、デバイスにチェックが付きます。

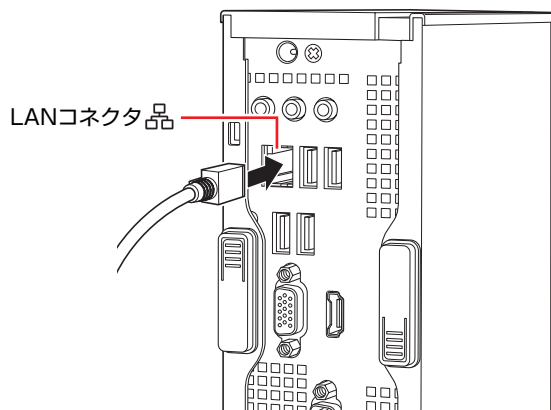
- 3 [OK] をクリックします。
これで設定は完了です。設定したデバイスから音声が出力されます。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。



2


▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のどちらかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 p.107 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いていたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

▶インターネットへの接続



インターネットへ接続する場合は、 p.90 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

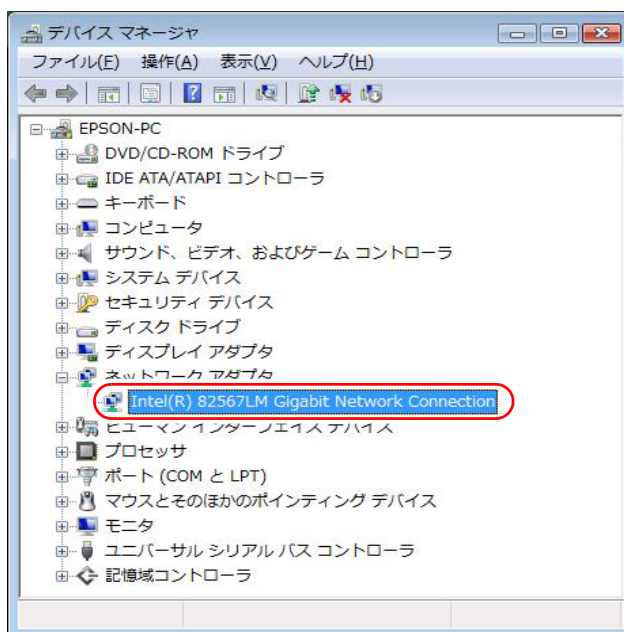
▶ Wakeup On LAN

「Wakeup On LAN」とは、シャットダウン状態やスリープ状態、休止状態でネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。シャットダウン状態からの復帰は、Windowsを正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

Wakeup On LANを有効に設定する

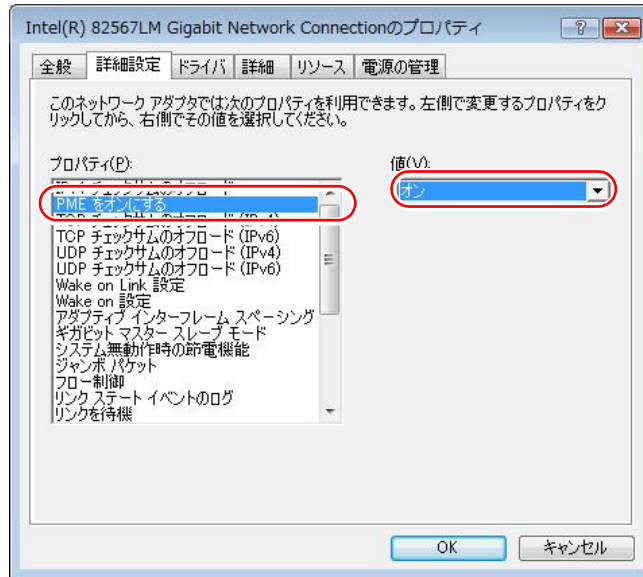
シャットダウン状態からの「Wakeup On LAN」を有効にする場合は、次の設定が必要です。


- 1 「BIOS Setupユーティリティ」-「Power」メニュー画面-「APM Configuration」-「Power On By PCIE Devices」を「Enabled」に設定します。
 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.139 「Power メニュー画面」
- 2 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 4 表示された「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Intel (R) 82567LM・・・」をダブルクリックします。



- 5 表示された「Intel (R) 82567LM・・・」画面の「詳細設定」タブをクリックします。

- 6 「プロパティ」の「PME をオンにする」をクリックし、「値」で「オン」を選択します。



- 7 [OK] をクリックします。
- 8  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。
これで、設定は完了です。



Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN (Power On by GBE LAN) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

▶リモートブート

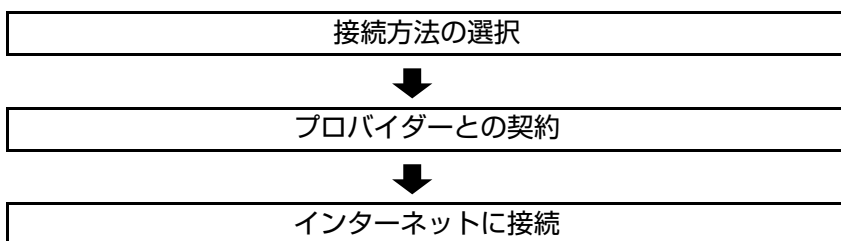
リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsをインストールすることができます。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



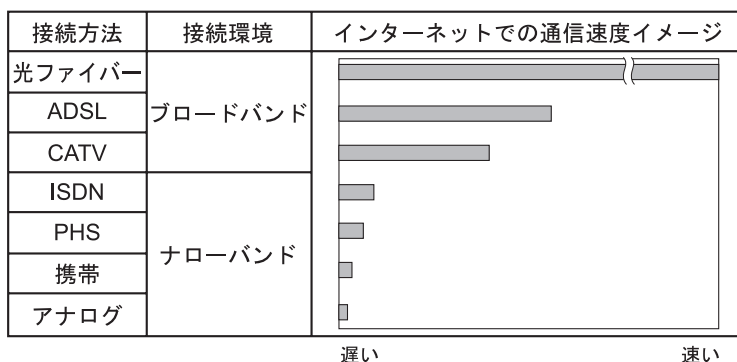
▶接続方法の選択とプロバイダーとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダー（インターネットサービスプロバイダー、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダーによって異なります。詳しい内容はプロバイダーにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。



インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー (FTTH)

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダーのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- そのほかの接続方法 (ナローバンド)

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダーにお問い合わせください。

▶ インターネットに接続する

プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書はなくさないように大切に保管してください。


▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピューターを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピューターウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法は、 p.95 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Windowsメール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

参考

Officeをインストールしているときは

Officeをインストールしている場合は、電子メールソフトOutlookを使用します。

Outlookの使用方法は、Outlookのヘルプをご覧ください。

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダーから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Windowsメール」 をクリックします。
- 2** 「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」 をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダーから取得したメールアドレスを入力して「次へ」 をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダーから指定されている受信メールサーバーと送信メールサーバーを入力して「次へ」 をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダーから指定されているユーザー名とパスワードを入力して「次へ」 をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、「完了」 をクリックします。



参考

設定を変更する

一度行った設定は、次の場所から変更することができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「電子メールアカウント」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用时、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<イメージ>

Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていないので、必要に応じてインストールを行ってください。

- JWord
「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。
- gooスティック
「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールすると、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。
- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版
Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

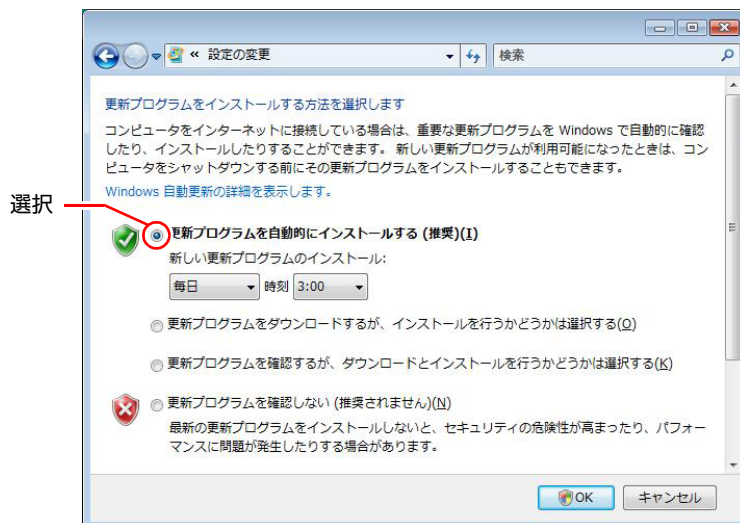
自動更新の設定がされていると、次の作業が自動で行われます。

- 重要な更新プログラムのダウンロード（インターネット接続時）
- 重要な更新プログラムのインストール（設定した時刻または設定した時刻より前にシャットダウンする際）

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

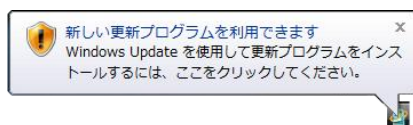
自動更新の設定は、次の場所で行います。

【スタート】－【すべてのプログラム】－【Windows Update】－【設定の変更】



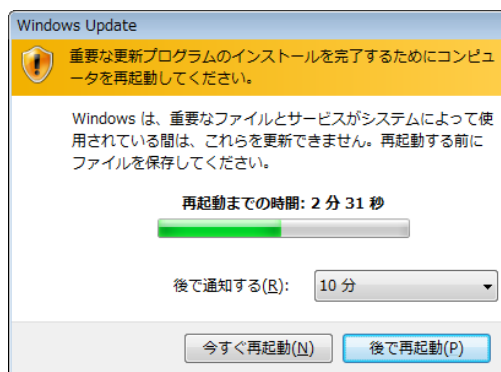
「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されたら

重要な更新プログラムがダウンロードされると、画面右下に「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されます。すぐに重要な更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



再起動を促す画面が表示されたら

重要な更新プログラムのインストールが行われると、再起動を促す画面が表示されることがあります。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



▶セキュリティソフトウェア

コンピューターウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピューターウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。

不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のインストールを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。

本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティ」 - 「Windows
ファイアウォール」 - 「設定の変更」

ファイアウォール
ソフトを使用しない
場合に選択

ファイアウォール
ソフトを使用する
場合に選択



▶ Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。

「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティ」 - 「Windows Defender」

▶ フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を盗み取る犯罪のことです。

本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

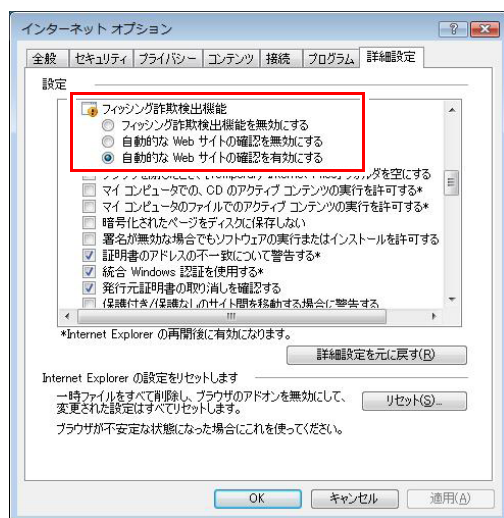
本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のインストールを行うと、自動的にフィッシング詐欺検出機能が有効になります。そのままお使いください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」で使用してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効／無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」



▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。


i-フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i-フィルター 30日版」が添付されています。

家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i-フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi-フィルター 30日版はインストールされていません。

インストール方法は、 p.162 「i-フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30日版の使用方法

i-フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、ユーザー別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター…」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。

ユーザー登録を行ってから再度設定を行ってください。

p.163 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して[OK] をクリックします。

3 「i-フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。





参考


ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合はセキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。この場合は、「i-フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30日版の利用期限

i-フィルター 30日版の利用期限は、ユーザー登録後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.102 「i-フィルター 30日版のサポート」




制限

本機に添付のi-フィルター 30日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i-フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

 p.102 「i-フィルター 30日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

電源設定を行う(省電力機能を使う)

ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶電源プランの設定

本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方に合わせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- バランス

パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。

- 省電力

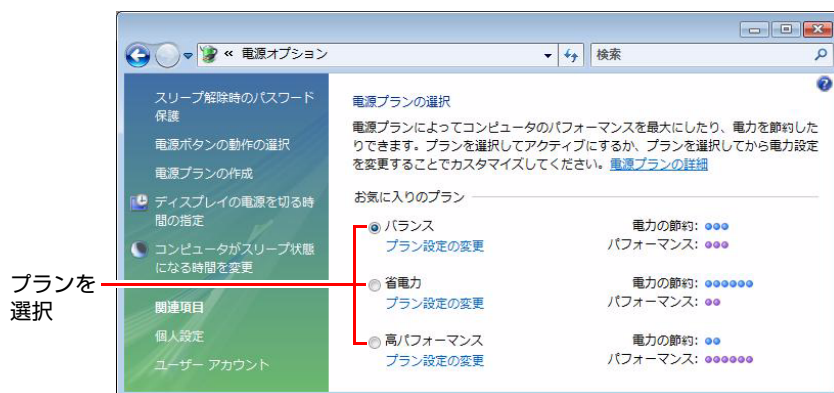
コンピューターの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。

- 高パフォーマンス

電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」



購入時は「バランス」に設定されています。


電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。



プラン内容の変更

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定などを行うことができます。

 p.107 「省電力状態に移行する方法」



▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の制限

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.107 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ 外部接続記憶装置（USB FDDなど）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態中に、周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 -  p.107 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- **ディスプレイの電源を切る**

省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**

作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプがオレンジ色に点灯します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態には次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

 - ・ **ハイブリッドスリープ（初期値）**

普通のスリープと休止状態を合わせたスリープです。作業中の内容はメモリとHDDの両方に保存されます。
 - ・ **普通のスリープ**

作業中の内容はメモリのみに保存されます。
- **休止状態**


作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。

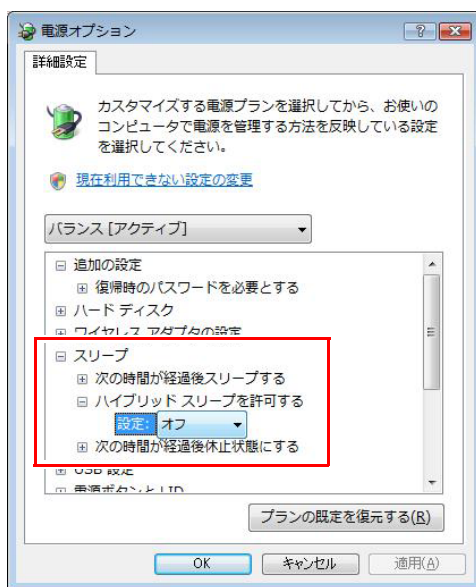


休止状態を有効にすると、スリープ状態がハイブリッドスリープから普通のスリープに変わります。

 p.105 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1 p.104 「電源プランの内容変更」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2 「スリープ」－「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3 [OK] をクリックします。



▶省電力状態に移行する方法

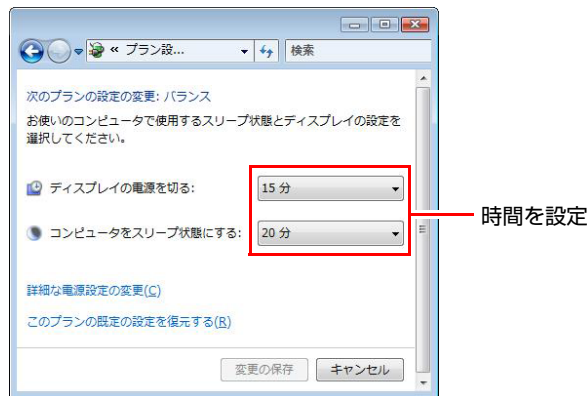
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープ状態になります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間を全て「なし」に設定してください。

直ちに移行する

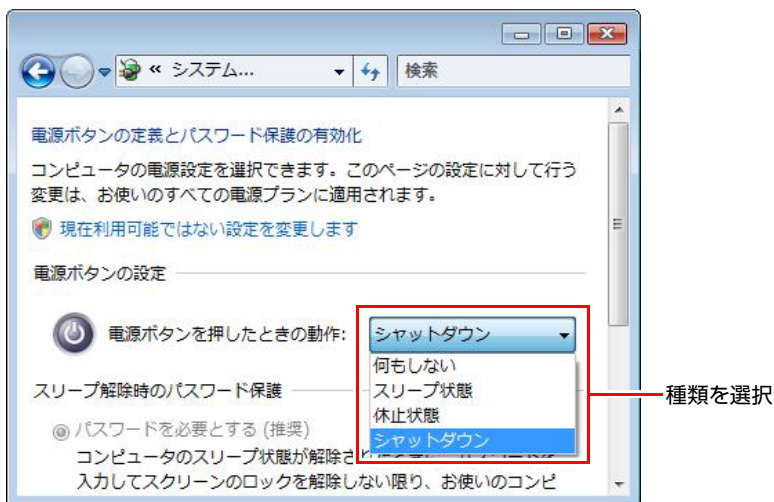
次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。


操作	省電力状態の種類
[スタート] - [⏻] をクリックする	スリープ状態（初期値）
[スタート] - [▶] から項目を選択する	スリープ状態、休止状態*、シャットダウン

*購入時は表示されません。

電源スイッチを押したときにも省電力状態に移行することができます。設定は次の場所から行います。

[スタート] - [コントロールパネル] - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「電源ボタンの動作を選択する」



休止状態を選択したい場合は、 p.106 「休止状態を有効にする」を参照して設定を有効にしてください。

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (⏻) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯 (青色)
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (青色)
スリープ状態	点灯 (オレンジ色)
休止状態	消灯
電源切断時 (シャットダウン時)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (青色)	マウスやキーボードを操作する (誤って電源スイッチを押さないでください)
スリープ状態	点灯 (オレンジ色)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを押す ● キーボードやマウスを操作する (USB接続の場合) ● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを押す ● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す



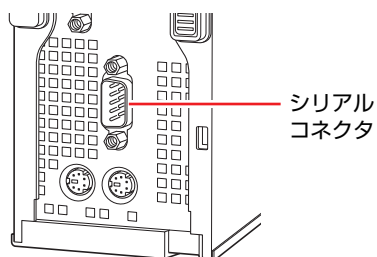
一度 AC アダプターを抜いて接続しなおした場合、**Ctrl** + **Esc** からの起動ができなくなることがあります。

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。


▶シリアルコネクタ


本機背面にはシリアルコネクタが1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやFAXモデム、ターミナルアダプターなど）を接続します。



本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port Address」

 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」

 p.138 「Advancedメニュー画面」

▶インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー (AMT)

本機には、インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー（以降、AMT機能）が搭載されています。これは、企業などで複数のコンピューターを管理するシステム管理者向けの機能です。ネットワーク上にあるAMT機能を搭載したコンピューターを集中管理できます。

（インテルCeleronプロセッサ搭載時やメモリ512MB1枚差しの場合、この機能は使用できません）

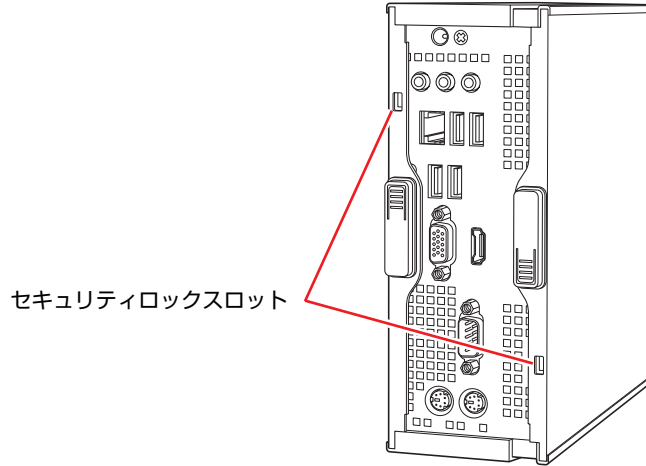
AMT機能を使用するには、別途システム管理用ソフトウェアが必要です。

本機でのAMT機能の設定方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅう」 - 「AMT機能セットアップガイド」(PDF)

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、セキュリティロックスロットが2つ搭載されています。どちらか1つに、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

第3章 システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設・交換方法について説明します。

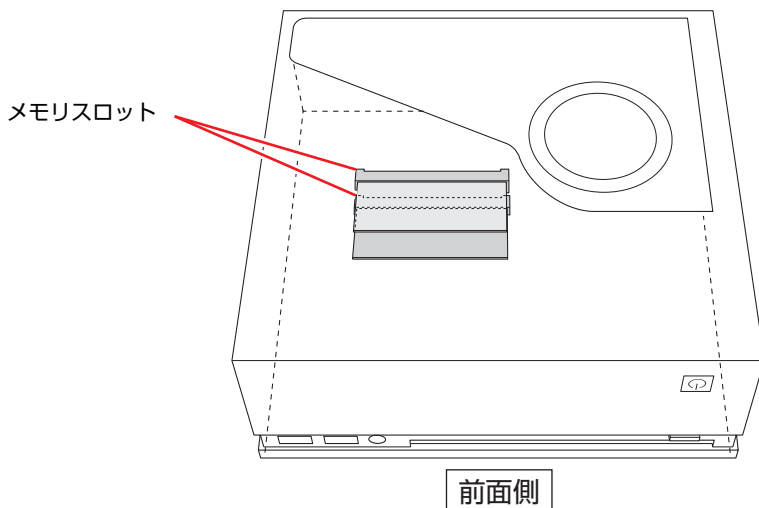
「拡張できる装置」	114
「作業時の注意」	115
「本体カバーの脱着」	116
「メモリの装着」	118

拡張できる装置

本機は、メモリを増設・交換して機能を拡張することができます。




メモリ以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。



メモリスロット

本機には、メモリスロットが2本用意されています。

 p.118 「メモリの装着」

アップグレードサービス

当社では、コンピューター本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ : 増設・交換
- HDD : 交換
- 光ディスクドライブ : 交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- メモリの増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリは落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

本体カバーの脱着

メモリを増設・交換する場合は、本体カバーを外す必要があります。



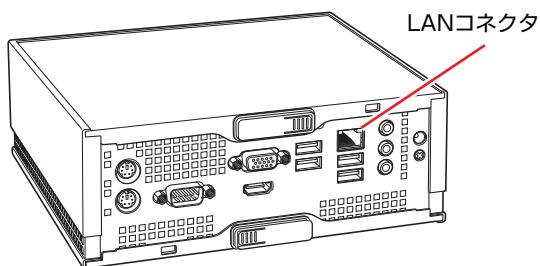
作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

▶本体カバーの取り外し・取り付け

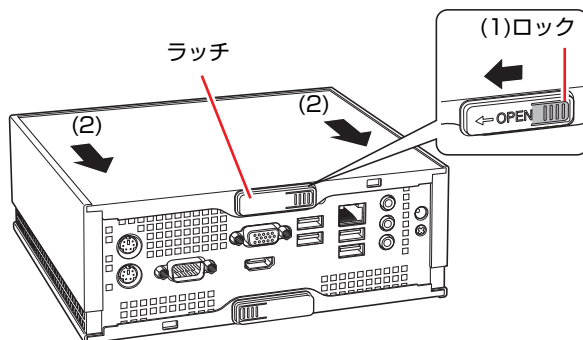
取り外し

本体カバーの取り外し方法は、次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 下図のとおり、コンピューターを横置きします。



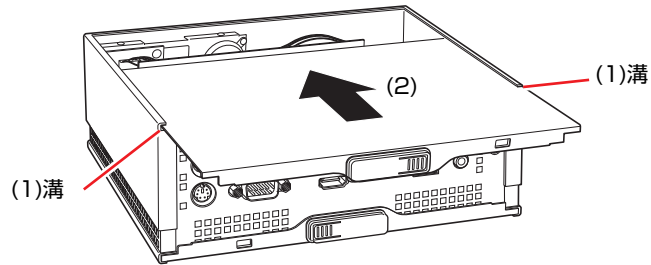
- 4** 本体カバーを取り外します。
(1) ラッチのロックを少し押し込みながら、ラッチをOPENの矢印の方向にスライドさせます。
(2) 本体カバーを手前にスライドさせて引き抜きます。



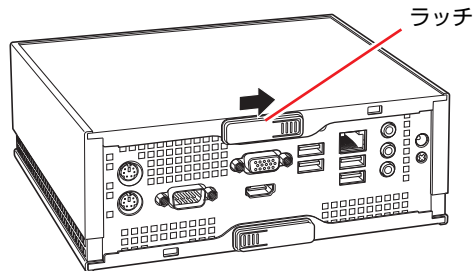
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り付けます。
 - (1) 本体カバーを本体の両側面の溝にはめ込みます。
 - (2) 本体カバーを奥までスライドさせます。



- 2** ラッチをOPENと反対の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて本体カバーを固定します。



- 3** コンピューターを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 4** コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
これで本体カバーの取り付けは完了です。

メモリの装着

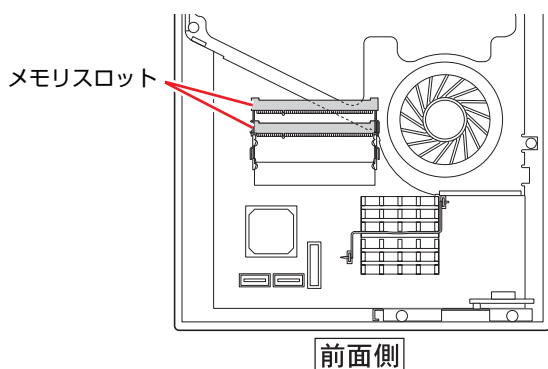
本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け・取り外し方法について説明します。

本機にはメモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより最大4GB（2GB+2GB）まで拡張が可能です。



制限

本機で合計 3GB を超えるメモリを搭載しても、システム上利用できるメモリの最大容量は 3GB までです。



▶メモリの仕様

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-6400 SODIMM (DDR2-800 SDRAM使用)
- メモリ容量 512MB、1GB、2GB
- Non ECC
- 200ピン
- CL=5

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>


メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度が最大になります。

メモリ装着の組み合わせとメモリの動作は、次のとおりです。


メモリ装着の組み合わせ	メモリの動作
同一容量のメモリ2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリ1枚	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。


▶メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.115 「作業時の注意」を必ずお読みください。

取り付け

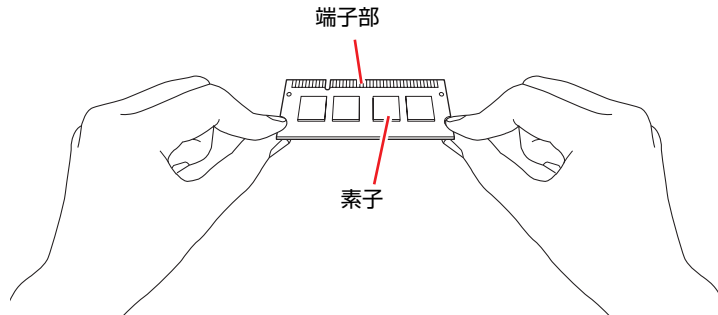
メモリの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** メモリを取り付けます。

メモリを交換する場合は、 p.121 「取り外し」を参照して装着されているメモリを取り外してから、新しいメモリを取り付けてください。

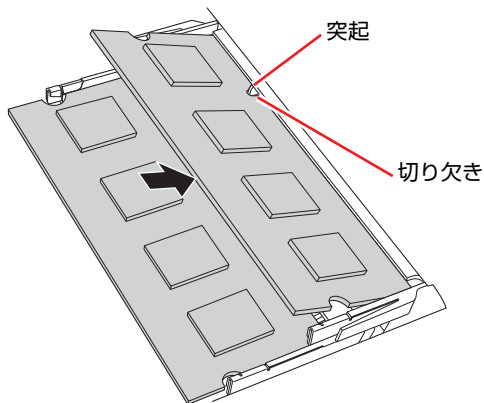
(1) メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。



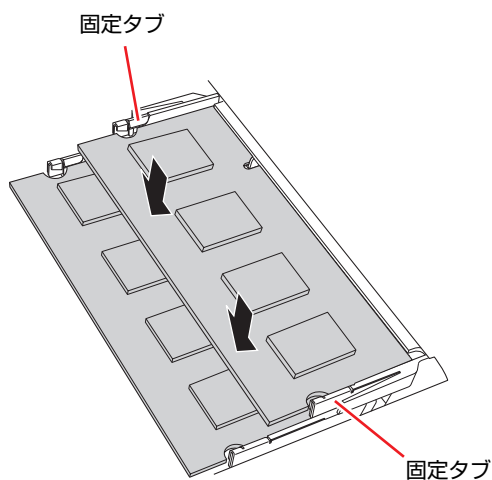
(2) メモリを、メモリスロットに差し込みます。

切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。




(3) メモリを静かに倒します。

正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。




5 本体カバーを取り付けます。

 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」


6 コンピューターを元のように縦置きまたは横置きにします。

7 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

8 コンピューターの電源を入れて、メモリの容量を確認します。

 p.122 「メモリの増設・交換後の作業」

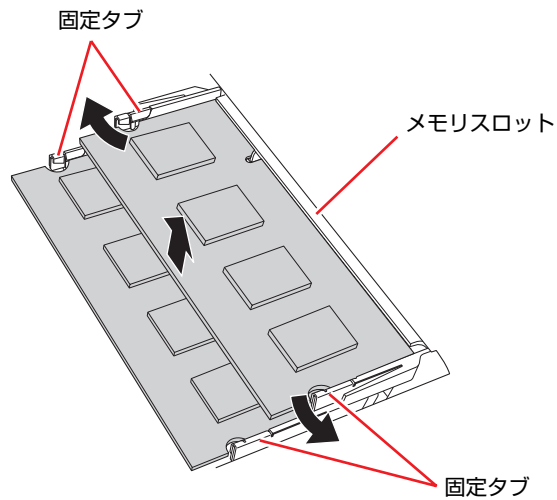
取り外し

メモリの取り外しは、 p.119 「取り付け」の手順4を次の手順に読み替えて行ってください。

1 メモリスロットに装着されているメモリを取り外します。

メモリを2枚交換する場合は、上側のメモリスロットのメモリを取り外してから、下側のメモリスロットのメモリを取り外してください。

(1) メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。




(2) 起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。
取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。


メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を入れて「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリ容量を確認します。

- 3 **[F10]** を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

 p.129 「BIOS Setupユーティリティの終了」

手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。



メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとAMT機能用メモリとして使用します。そのため、BIOS上では、メインメモリからビデオメモリ（約8MB）とAMT機能用メモリ（約32MB）を引いた容量が表示されます。

第4章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	124
「BIOS Setupユーティリティの操作」	125
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	136

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効/無効にする場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考



リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.220 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。
万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.136 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」
- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。
 p.129 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

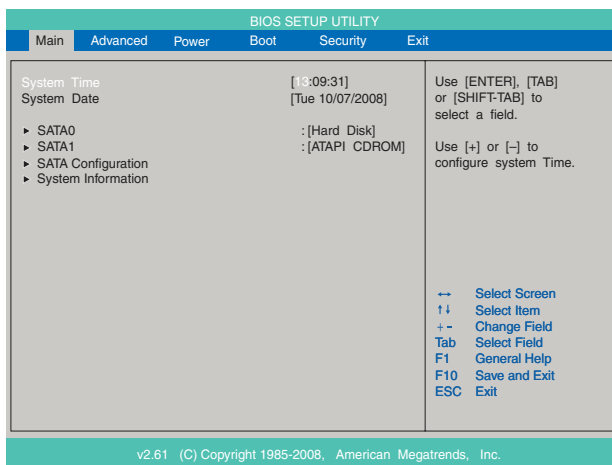
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




<BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）>

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP
Press F2 to load default values and continue

このメッセージが表示されたら **F1** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

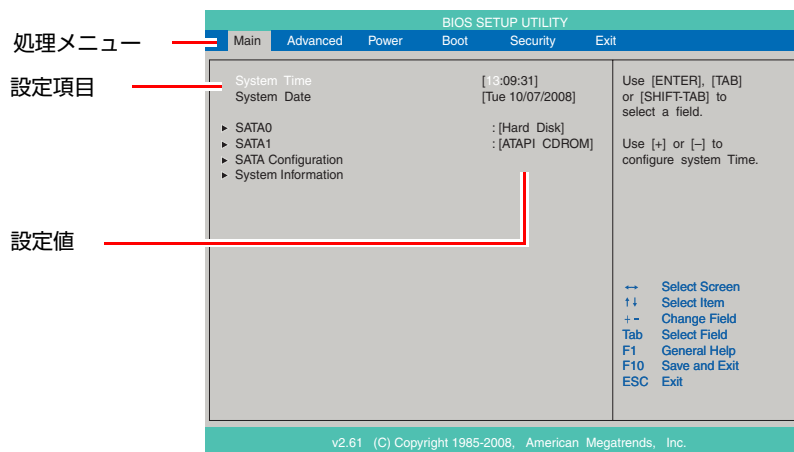
 p.129 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶ BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.136 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

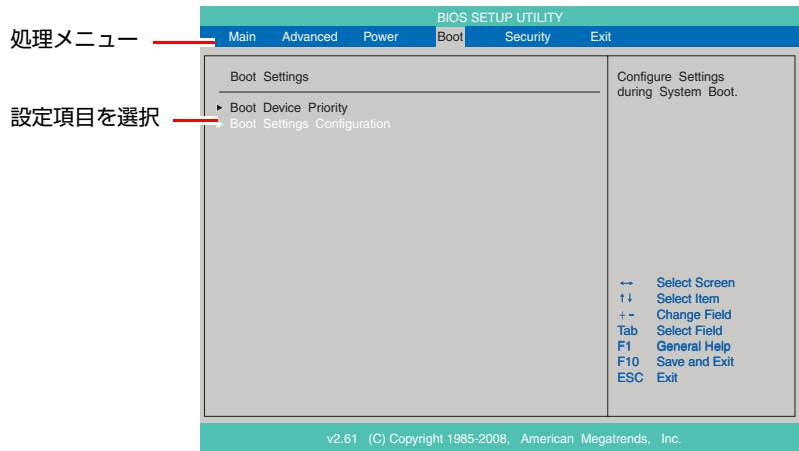
操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

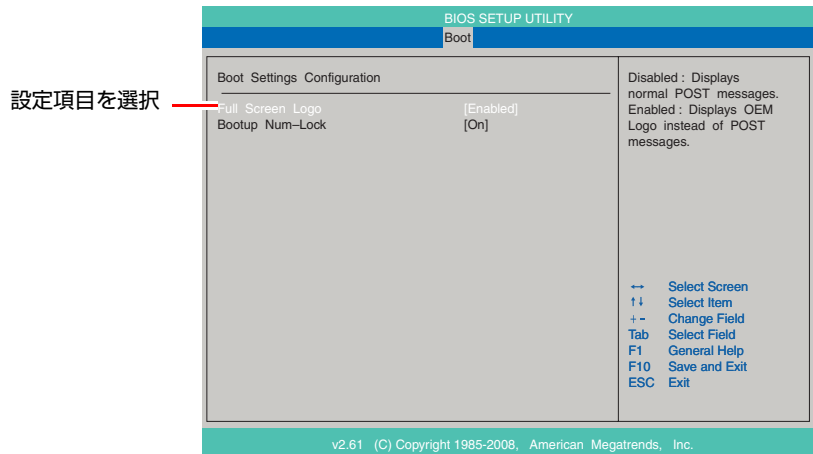


<メニュー画面>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

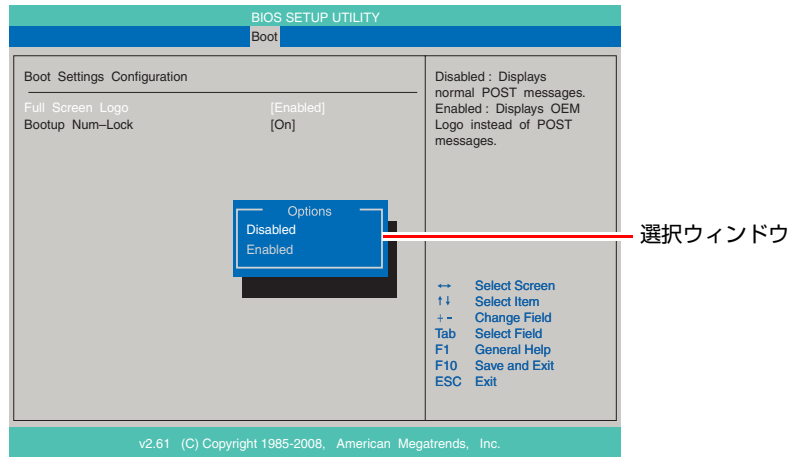


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

◀を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓で値を選択し ◀で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

▶ 設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択して、**↵** を押します。


Load Setup Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Security」メニュー画面－「TPM Function」を「Enabled」に設定します。
マザーボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.129 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 **[F7]** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 **[Ok]** を選択して、**[↵]** を押します。

▶パスワードを設定する

「Boot」メニューの「Security」画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。


パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDDアクセス制限など)

パスワードの種類


パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができません)。


 p.132 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match!」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。


ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.142 「Securityメニュー画面」 – 「Security Settings」 – 「User Access Level」

パスワード入力タイミングの設定


BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.142 「Securityメニュー画面」 – 「Security Settings」 – 「Password Check」


管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。


Password uninstalled.
[Ok]

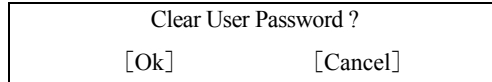
- 3 「Ok」が選択された状態で  を押します。


「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードだけを削除する方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、を押すと、次の画面が表示されます。



- 2 [Ok] が選択された状態で  を押します。
「User Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限



HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。


HDDアクセス制限の設定方法

HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1 管理者パスワードを設定します。
 p.131 「パスワードの設定方法」
- 2 HDDアクセス制限の設定をします。
「Security」メニュー画面－「Security Settings」－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.142 「Securityメニュー画面」

解除方法

HDDアクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。
 p.142 「Securityメニュー画面」



パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

▶起動 (Boot) デバイスの順番を変更する

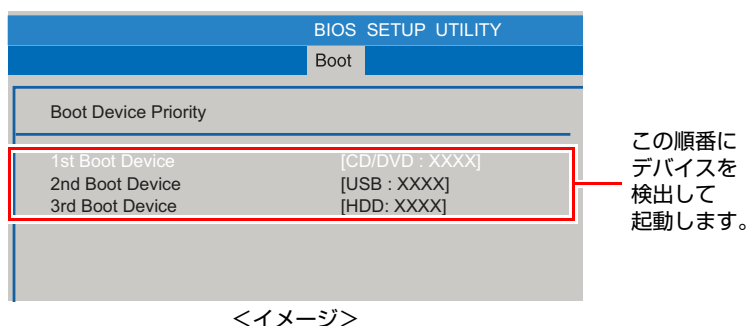
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク (USBフラッシュメモリなど) を接続していたり、USB FDDにFDをセットしていたりすると、Windowsが起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (WindowsやOS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



<イメージ>








「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

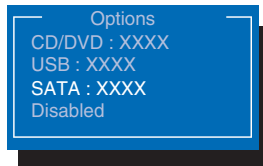
- USB:XXXX (USB FDDやUSBフラッシュメモリなどのUSB記憶装置)
- SATA:XXXX (接続されているHDD)
- CD/DVD:XXXX (接続されている光ディスクドライブ)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

購入時は、リムーバブルディスクの順番がHDDより前に設定されているため、USB記憶装置などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法



起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、1番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2番目に起動するドライブをHDDに設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して  を押します。
- 2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3 HDDの順番を2番目に設定します。
 - (1)   で「2nd Boot Device」(2番目)を選択し、 を押します。
 - (2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。



<選択ウィンドウ>

HDDの順番が2番目になります。

- 4  を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。
 p.129 「BIOS Setupユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間、シリアルATA機器の設定を行います。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Powerメニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
- Securityメニュー画面
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶ Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、シリアルATA機器の設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

System Time		時刻を設定します。(時間:分:秒)の順で表示されます。
System Date		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
SATA 0 SATA 1 (シリアルATA装置の設定) ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	* Device	シリアルATA装置の機器の種類を表示します。
	* Model Name	シリアルATA装置の機器の型番を表示します。
	* F/W version	シリアルATA装置の機器のファームウェアのバージョンを表示します。
	* Size	HDDの容量を表示します。
	* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかを表示します。
	* PIO Mode	シリアルATA装置の機器のPIO転送モードを表示します。
	* Ultra DMA Mode	HDDのUltra DMA転送モードを表示します。
	* Async DMA Mode	シリアルATA装置の機器のAsync DMA転送モードを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態を表示します。
	Type	シリアルATA装置の仕様を設定します。 <u>Auto</u> :BIOSが自動的にシリアルATA装置の仕様を設定します。 Not Installed:シリアルATA装置を使用しない場合に選択します。

SATA 0 SATA 1 (シリアルATA装置の設定) ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Auto: 使用します。
	Block (Multi-Sector Transfer)	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled: 使用しません。 Auto: BIOSが自動的に最適な速度を設定します。
	PIO Mode	シリアルATA装置の機器のPIO転送モードを設定します。 Auto: BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4: 転送モードを設定します。
	DMA Mode	シリアルATA装置の機器のDMA転送モードを、BIOSが自動的に最適にしていることを表示しています。 Auto
	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。
	32Bit Data Transfer	32Bitデータ転送を使用するかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Enabled: 使用します。
	SATA Configuration	Configure SATA As
System Information 本機の仕様を表示します。	*AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	*Version	BIOSのバージョンを表示します。
	*Build Date	BIOSのバージョンの制定日を表示します。
	*Processor	CPUの情報を表示します。
	*Type	CPUの型番を表示します。
	*Speed	CPUの周波数を表示します。
	*Count	CPUコアの数を表示します。
	*System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	*Usable Size	本機でシステム上利用可能なメモリ容量を表示します。
*Installed Memory	本機に搭載されている総メモリ容量を表示します。	

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	* Manufacturer	メーカーを表示します。
	* Brand String	型番を表示します。
	* Frequency	周波数を表示します。
	* FSB speed	バススピードを表示します。
	* Cashe L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology機能の有効/無効を設定します。 Virtualization Technology機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Onboard Devices Configuration マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。	Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
	Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。 [Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されます。
	Serial Port Address	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3

USB Configuration USBコントローラーの設定をします。	USB Function	初期値 [Enabled] のままで使用します。
	USB2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 Disabled : USB1.1の転送速度で使用します。 Enabled : USB2.0の転送速度で使用します。
	USB2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のままで使用します。
	* USB Device	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Mass Storage Device config	外付けUSB機器の型番を表示します。初期値のまま使用します。
Intel AMT Configuration AMT機能の設定をします。	Intel AMT Support	AMT機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : AMT機能を使用しません。 Enabled : AMT機能を使用します。
	Unconfiguration AMT	「Intel AMT Support」を「Enabled」にし、「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。 ME BIOS Extensionの設定を初期化します。 Disabled : ME BIOS Extensionの設定を保存します。 Enabled : ME BIOS Extensionの設定を初期値に戻します。

▶ Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ


Suspend to RAM	スリープの設定をします。 Disabled : ディスプレイなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 Enabled : メモリ以外の電源が切れます。消費電力はほとんどありません。
ACPI 2.0 Support	初期値 [No] のままで使用します。

<p>APM Configuration</p> <p>起動する方法や条件を設定します。</p>	<p>Restore On AC Power Loss</p>	<p>電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかを設定します。</p> <p>分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。</p> <p>Power OFF :電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。</p> <p>Power ON :電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。</p> <p>Last State :コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。</p>
	<p>※Power On By RTC Alarm</p>	<p>コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p> <p>Enabled : 設定します。</p>
	<p>RTC Alarm Date Hour Minute Second</p>	<p>「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると表示されます。</p> <p>起動する日：時間：分：秒を設定します。</p>
	<p>※Power On By PCIE Devices</p>	<p>電源切断時、マザーボード上のネットワークから起動するかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p> <p>Enabled : 設定します。</p>
	<p>※Power On By PS/2 Keyboard</p>	<p>PS/2キーボードを使用している場合に、スリープ状態からの復帰をキーボードから行えるようにするかを設定します。</p> <p>Enabled : 設定します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p>
	<p>Wake up Key select</p>	<p>Power On By PS/2 Keyboardを設定すると表示されます。スリープ状態からの復帰に Ctrl + Esc を使用します。USBキーボードの場合、この機能は使用できません。</p> <p>Ctrl+ESC : Ctrl + Esc を使用します。</p>

※ Enabled（有効）に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピューターが一瞬起動する場合がありますが、不具合ではありません。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。


Bootの順番の変更方法については、 p.134 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

___は初期値

*は項目表示のみ



システムを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は接続しているリムーバブルディスクの型番が表示されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、変更を保存して再起動します。)
Hard Disk Drives	1st Drive 2nd Drive	HDDを2台以上接続すると、型番を自動的に検出して表示します。
Removable Drives	1st Drive 2nd Drive	外付けの記憶装置（USB FDD など）を2台以上接続すると、型番を自動的に検出して表示します。
Optical Disk Drive	1st Drive 2nd Drive	光ディスクドライブを2台以上接続すると、型番を自動的に検出して表示します。
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
	Bootup Num-Lock	DOS起動時のNumLockの状態を設定します。 Off：NumLockが押されていない状態にします。 On：NumLockが押された状態にします。

▶ Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
 パスワードの設定方法は、 p.131 「パスワードを設定する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

<p>Security Settings</p> <p>システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。</p>	<p>*Supervisor Password/User Password</p>	<p>Supervisor Password（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。</p> <p>Installed :パスワードが設定されています。</p> <p><u>Not Installed</u>:パスワードが設定されていません。</p>
<p>Change Supervisor Password</p>	<p>Change Supervisor Password</p>	<p>管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>User Access Level</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>User Access Level</p>	<p>「User Password」（ユーザーパスワード）で「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。</p> <p>No Access :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。</p> <p>View Only :ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。</p> <p>Limited :「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。</p> <p><u>Full Access</u>:ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOSセットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。</p>
<p>Change User Password</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>Change User Password</p>	<p>ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Password Check</p> <p>※管理者パスワードを設定すると表示されます。</p>	<p>Password Check</p>	<p>管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。</p> <p><u>Setup</u> :「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Always :「BIOS Setupユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。</p>

Security Settings システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	TPM Function	セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
	Clear Trusted Platform Module	「TPM Function」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、 <input type="button" value="↵"/> を押し、確認画面が表示されたら [OK] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。再起動後、「TPM Function」は「Disabled」に設定されます。
	Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目		購入時の設定					変更内容						
SATA0 SATA1	Type	Auto	Not Installed				Auto	Not Installed					
	LBA/Large LBA	Auto	Disabled				Auto	Disabled					
	Block (Multi Sector Transfer)	Auto	Disabled				Auto	Disabled					
	PIO Mode	Auto	0	1	2	3	4	Auto	0	1	2	3	4
	32Bit Date Transfer	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled					

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定					変更内容				
CPU Configuration	Virtualization Technology	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			
	Onboard LAN	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			
	Serial Port Address	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			
Intel AMT Configuration	Intel AMT Support	Disabled	Enabled				Disabled	Enabled			

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
APM Configuration	Restore On AC Power Loss	Power OFF	Power ON	Last State	Power OFF	Power ON	Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()		Disabled	()	
	2nd Boot Device	Disabled	()		Disabled	()	
	3rd Boot Device	Disabled	()		Disabled	()	
	4th Boot Device	Disabled	()		Disabled	()	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Bootup Num-Lock	Off	On		Off	On	

Security メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Security Settings	Supervisor password	Not Installed	Installed		Not Installed	Installed	
	User password	Not Installed	Installed		Not Installed	Installed	
	*User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access		No Access Limited	View Only Full Access	
	*Password Check	Setup	Always		Setup	Always	
	TPM Function	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	*Hard Disk Protection	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	148
「ソフトウェアの再インストールを行う」	150

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。


▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールをしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.200 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。

この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う


ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows VistaリカバリDVD
Windows Vistaが収録されているDVD-ROMです。
- リカバリツールCD
本体ドライバーやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバーやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。専用のメディアは添付されていません。

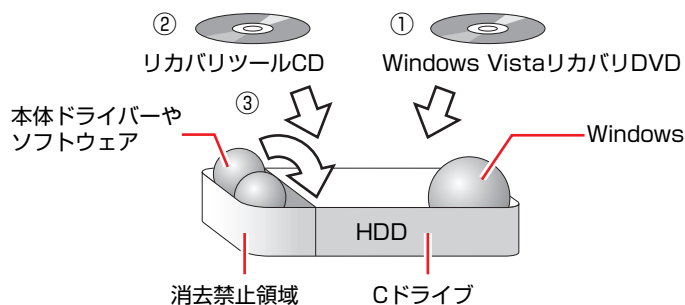
 p.22 「添付されているソフトウェア」

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルで、ソフトウェアの再インストールを行う際は、外付けの光ディスクドライブが必要です。

▶再インストールの概要

ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。




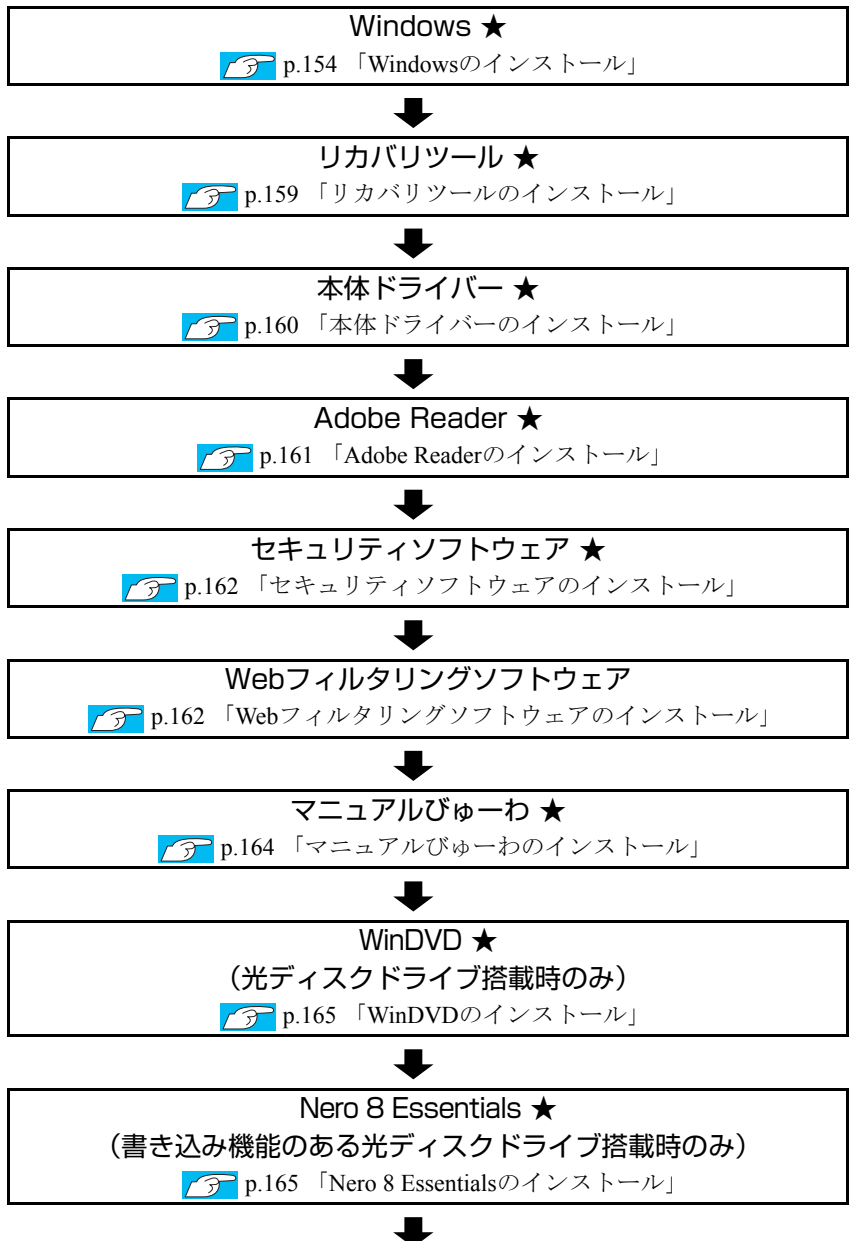
- ① Windows VistaリカバリDVDから、Windowsをインストールします。
- ② リカバリツールCDから、リカバリツールをインストールします。
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。
- ③ リカバリツールを使用して、本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。

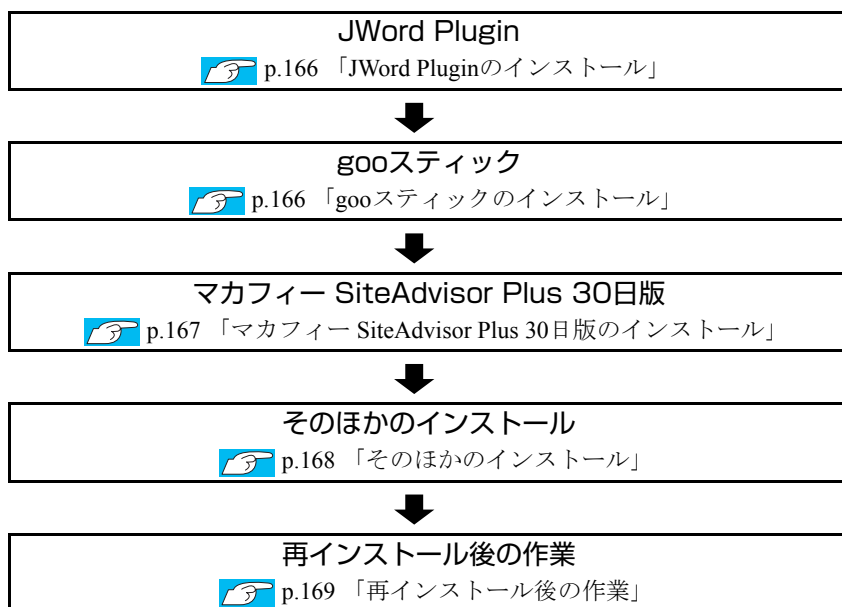
▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

★印が付いているソフトウェアは必ずインストールしてください。

購入時のインストール状態は、 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

管理者 (Administrator) のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

- Aドライブ : USB FDD (オプション)
- Cドライブ : HDD
- Dドライブ : 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。


 p.155 「バックアップを取る」

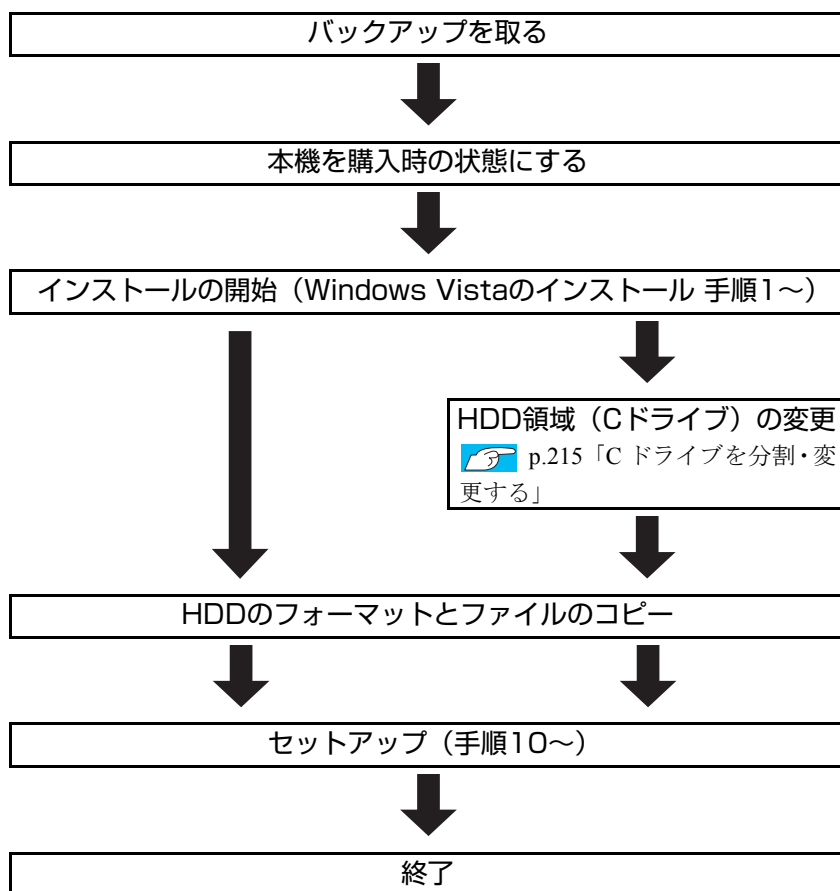
初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windowsのインストール


インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.155 「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。

HDD領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.212 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶ Windows Vistaをインストールする


バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、次の設定やデータのバックアップを行ってください。*

- ネットワークやモデムの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。


- Internet Explorerの「お気に入り」・Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」

 p.207 「データのバックアップ」


このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティチップユーティリティの設定

セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」

- そのほかの重要なデータ

 p.207 「データのバックアップ」


*再インストール中にHDD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。HDD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

コンピューターを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

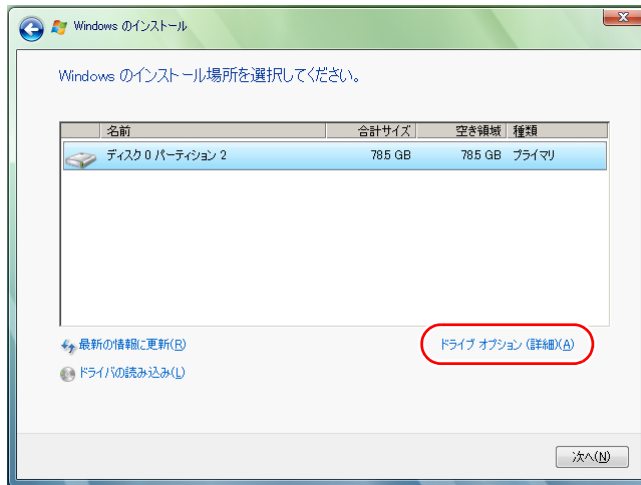
Windows Vistaのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows Vista リカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックし、画面を閉じてください。
ここからはインストールを行いません。
- 2** 「スタート」 - 「▶」 - 「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。
- 5** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で「次へ」をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。
- 7** 「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、「再インストール」をクリックします。
- 8** 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。

- 9 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。


<領域変更を行わない場合（通常）>

- (1) 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。




- (2) 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」（Cドライブ）を選択します。
- (3) 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- (4) フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で [次へ] をクリックします。
Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」（Cドライブ）が選択された状態で [次へ] をクリックします。
Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。


<領域変更を行う場合>

 p.215 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

- 10 「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。

 p.40 「ユーザー名と画像の選択」

- 11** 「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピューター名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。

 p.40 「コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください」

- 12** 「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。


「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

- 13** 「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。

- 14** 「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示された場合は、場所をクリックして選択します。

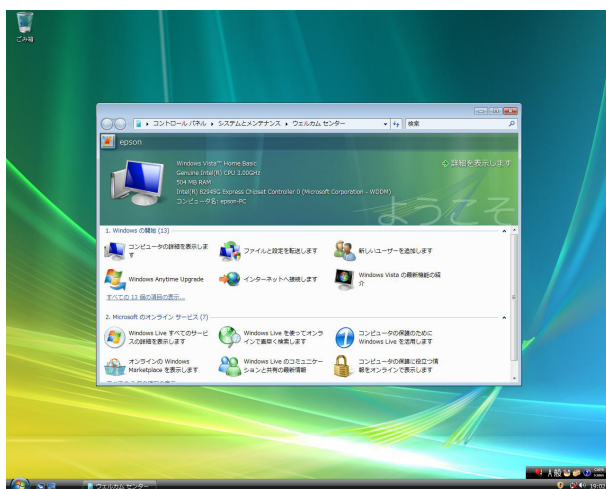
- 15** 「ありがとうございます」と表示されたら、[開始] をクリックします。

設定が行われます。設定には約5分かかります。

- 16** 手順 10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、 を押します。

- 17** Windows Vistaのデスクトップ(下記の画面)が表示されたら、「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。


デスクトップの背景は、手順11で選択した背景が表示されます。



これでWindows Vistaのインストールは完了です。

- 18** 手順9で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

 p.216 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールの際に使用します。

リカバリツールのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exeの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。
- 4** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。



- 5** 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出します。
これで「リカバリツール」のインストールは完了です。

▶本体ドライバーのインストール

本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバー類を、一括してインストールします。

本体ドライバーのインストールでインストールするドライバー類は、次のとおりです。

- チップセットドライバー
- ネットワークドライバー
- インフォメーションメニュー
- ビデオドライバー
- Java2 Runtime Environment
- サウンドドライバー
- インテルAMTドライバー
(メモリ512MB1枚差しの場合は、インストールされません)

上記以外のデバイスは、Windows標準ドライバーで動作します。

Windows標準ドライバーとは、Windowsをインストールすると自動的にインストールされるドライバーです。

インストール

本体ドライバーのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバー」を選択して [インストール] をクリックします。

手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

- 5 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から [インストール] をクリックします。

- 6 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK] をクリックします。
各ドライバーが自動的にインストールされます。インストールには、約15分かかります。
- 7 「これらの変更を・・・コンピュータを再起動する必要があります。」と表示された場合は、[後で再起動する] をクリックします。
- 8 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 9 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバーのインストールが正常に完了したかを確認して [PC再起動] をクリックします。
ドライバーによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。
- 10 「これらの変更を・・・コンピュータを再起動する必要があります。」と表示された場合は、[今すぐ再起動する] をクリックします。
Windowsが再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。



リカバリツールの [ファイル削除] の表示について
リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で [ファイル削除] が黒字で表示される時は、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。[ファイル削除] をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して [インストール] をクリックします。

- 5 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール手順は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i-フィルター 30日版」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「i-フィルター…インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
 デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。続いて、i-フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i-フィルター 30日版のユーザー登録

i-フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
 ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
 ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 Windowsが再起動して「i-フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i-フィルター」を使ってみる] をクリックします。
 「i-フィルター…」画面はほかの画面の後ろにある場合があります。
- 2 「「i-フィルター」の開始」と表示されたら、次の作業を行います。
 <初回ユーザー登録時>
 - (1) [次へ] をクリックします。
 - (2) 「無料お試し版ダウンロード お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mailアドレス」、「お名前」、「管理パスワード」、「管理パスワード【確認入力】」を入力します。
 「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
 - (3) 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかどうかを選択します。
 - (4) [同意して確認画面へ] をクリックします。
 - (5) 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、[登録する] をクリックします。
 - (6) 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

(7) 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアルID」と「利用期限」を確認しておきます。

同時に、登録したE-Mailアドレスにも「シリアルID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。

一度登録を行うと、同じE-Mailアドレスでの再登録はできません。2回目以降のユーザー登録は登録完了メールに記載されている「シリアルID」を使用して登録を行いますので、「シリアルID」は必ず控えておいてください。

(8) [完了] をクリックします。

<2回目以降のユーザー登録時>

(1) [シリアルIDを持っているお客さま] をクリックします。

(2) 「シリアルIDのご確認」で、初回セットアップ時に配信された「シリアルID」を入力します。

(3) 「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード【確認入力】」を入力します。

「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。

(4) [次へ] をクリックします。

(5) 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

(6) 「シリアルIDを確認しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これで、i-フィルター 30日版のユーザー登録は完了です。

▶マニュアルびゅうのインストール

「マニュアルびゅう」は、本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。

マニュアルびゅうのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅう」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「マニュアルびゅうセットアップへようこそ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「インストール準備の完了」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

- 7 「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、[完了] をクリックします。

これでマニュアルビューワのインストールは完了です。

▶ WinDVDのインストール

<光ディスクドライブ搭載時のみ>

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。

WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD …」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶ Nero 8 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ>

「Nero 8 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 8 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 8 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 8 Essentials] をクリックします。
- 6 「Nero 8 Essentialsインストールウィザード」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了したら、続いて、ユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の ▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。



3 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用していた場合は、ユーティリティをインストールします。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバーのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバーやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバーの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバーやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合 : USB機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合 : プリンターに添付のドライバー

そのほかのソフトウェアのインストール


「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。


 p.218 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

再インストールの前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールの前にバックアップしたデータを復元します。

 p.207 「データのバックアップ」

- Internet Explorer、Windowsメールの設定
- 重要なデータ
バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windowsが最新の状態になります。

 p.95 「Windows Update」

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。


「トラブルが発生したら」	172
「困ったときに」	173
「システム診断ツールを使う」	197
「トラブル時に役立つ機能」	198
「警告メッセージが表示されたら」	203

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

- 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.173 「困ったときに」

- とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れ

参考

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

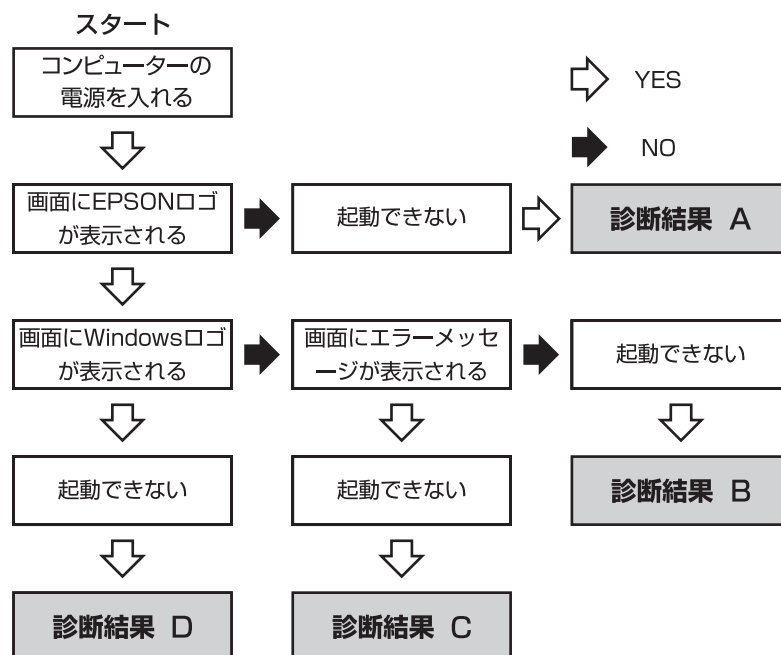
コンピューター本体（起動時）.....	p.174
● 起動.....	p.174
● そのほか.....	p.181
コンピューター本体.....	p.182
● 省電力機能.....	p.182
● セキュリティチップ（TPM）.....	p.183
● そのほか.....	p.183
メモリ.....	p.185
● メモリ.....	p.185
記憶装置.....	p.186
● HDD.....	p.186
● 光ディスクドライブ（オプション）.....	p.187
入力装置.....	p.189
● キーボード.....	p.189
● マウス.....	p.190
表示装置.....	p.191
● ディスプレイ.....	p.191
サウンド.....	p.192
● スピーカー.....	p.192
ソフトウェア.....	p.193
● ソフトウェア.....	p.193
● インストール.....	p.195

▶コンピューター本体の不具合（起動時）

コンピューターが起動できないときの不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピューターが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピューター本体への電源供給を確認する

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューターとACアダプター、電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.223 「CMOS RAMの初期化」

(8) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B


次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す


本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.198 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

 p.198 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F5]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「Windowsブートマネージャ」が表示されたら、**[F8]** を押します。
4. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**[↵]** を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.129 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」


(5) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.223 「CMOS RAMの初期化」

(6) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.147 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果 C

まず、 p.203 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください、対処を行ってください。

- 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

- 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピューター本体の電源を入れなおす

コンピューターの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピューター内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する

大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。

● 「DISK BOOT FAILURE」、 「Invalid system disk」、 「Missing Operating System」、 「Operating System Not Found」 などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FDやUSBフラッシュメモリを取り出す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB記憶装置からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB記憶装置を取り出してから、コンピューターを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。

また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をUSB記憶装置よりも前に設定しておくことで、USB記憶装置を接続した状態でも、コンピューターを起動できるようになります。



p.134 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露している可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。



p.125 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面で「SATA0」の表示を確認します。

「Hard Disk」と表示される場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記(4) (5)の作業を行ってください。

「Not Detected」、「None」など表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す


BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。



p.129 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.154 「Windowsのインストール」


● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FDやUSBフラッシュメモリを取り出す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB記憶装置からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB記憶装置を取り出してから、コンピューターを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。

また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をUSB記憶装置よりも前に設定しておくことで、USB記憶装置を接続した状態でも、コンピューターを起動できるようになります。

 p.134 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.129 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(4) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.223 「CMOS RAMの初期化」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.154 「Windowsのインストール」

診断結果 D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う


必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.198 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。






常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。



p.198 「システムの復元」


(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に  を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「Windowsブートマネージャ」が表示されたら、 を押します。
4. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、 または  を押し、
「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、 を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.154 「Windowsのインストール」


起動時の不具合（そのほか）**現象**


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter CURRENT Password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.131 「パスワードを設定する」


- パスワードを正しく入力しているか確認してください。の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.60 「キーロック表示ランプ」

- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。ただし、HDDへのアクセス制限を設定している場合、パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。

 p.223 「CMOS RAMの初期化」


強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されるので、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧ください。

 p.144 「BIOSの設定値」

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

- Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、 p.200 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

▶コンピューター本体の不具合




コンピューター本体の不具合に関する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働か確認してください。
- 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。
「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」:「Disabled」(無効)
 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.105 「省電力状態の種類」
- スリープ状態や、休止状態のときは、マウスやキーボードの操作では、省電力状態から復帰できない場合があります。この場合は、電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
 p.109 「省電力状態からの復帰方法」
- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。


セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目で行います。

「Security」メニュー画面－「Clear Trusted Platform Module」で  を押し、確認画面が表示されたら、[OK] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。

初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。



セキュリティチップの初期化を行う場合は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）を参照し、お客様の責任において十分に注意して行ってください。


そのほかの不具合

現象

コンピューター本体の設置場所が離れているため、電源スイッチが押しにくい。

確認と対処

- PS/2接続のキーボードをお使いの場合、キーボードの  +  を押して、コンピューターの電源を入れたり、省電力状態から復帰したりすることができます。

 p.61 「キーボードからの起動」

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。ソフトウェアを終了させることができない場合には、電波スイッチを5秒以上押し続けて電源を切ってください。


 p.56 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.220 「リチウム電池の交換」

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったところ、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュメモリの挿入を求められた。

(BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。)

確認と対処

- パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュメモリを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

- Windows Vistaでは、[スタート] - [⏻] を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、[スタート] - [▶] - 「シャットダウン」で電源を切ってください。
- 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けてみてください。

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

現象

メモリ容量がBIOS上で少なく表示される。

確認と対処

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリと AMT 機能用として使用します。そのため、BIOS上ではメインメモリからビデオメモリ（約8MB）と AMT機能用メモリ（約32MB）を引いた容量が表示されます。
- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。



p.118 「メモリの装着」

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、少なく表示される。


確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOS Setupユーティリティの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処

- p.156 「Windows Vistaのインストール」手順9で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダーに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダーが不要な場合は、削除してください。Windows.oldフォルダーは [スタート] - 「コンピュータ」 - 「Cドライブ」にあります。
通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

光ディスクドライブ（オプション）の不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- スピーカーの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。

 p.84 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか、確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合は、アクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか、確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のメディアの場合、アクセスできない可能性があります。
- セットしたメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。





確認と対処

- コンピューターの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアへの書き込みができない。

確認と対処

- DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込みソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
 p.165 「Nero 8 Essentialsのインストール」
- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーガイド』をご覧ください。
 「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」
- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか、光ディスクドライブのPDFマニュアルを確認してください。
 「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」
- Windowsが省電力状態になると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行する設定を無効にしてください。
 p.107 「時間経過で移行させない」
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
- メディアの残量があるか、確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。


現象


DVDの再生ができない。

確認と対処


- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。光ディスクドライブ搭載時、本機には、「WinDVD」がインストールされています。DVD VIDEO再生に関する不具合については、WinDVDのヘルプを確認してください。

- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。

 p.76 「表示に関する各種設定」

 p.78 「リフレッシュレートの設定」

- 本機に、ディスプレイを2台接続してクローンモードで表示していると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。

 p.80 「画面表示の切り替え方法」

▶ 入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.60 「キーロック表示ランプ」

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。PS/2 キーボードの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.34 「キーボードを接続する」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。


 p.56 「ハングアップしたときは」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。

 p.58 「キーボードを使う」

現象

Powerキー (⏻) のあるキーボードで、Powerキーが使用できない。

確認と対処

- 本機はPowerキー (⏻) からの起動はできません。


マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインターが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。PS/2接続の場合は、本機の電源を入れる前に本機にマウスケーブルを接続してください。

 p.33 「マウスを接続する」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。

 p.56 「ハングアップしたときは」

- オプティカルマウスの場合、表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用すると、マウスの動きがコンピューターに伝わりません。

▶表示装置の不具合


表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。


確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- 本機背面のVGAコネクタまたはHDMIコネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 p.31 「ディスプレイを接続する」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピューターの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。


現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スリープ状態になっています。この場合は、電源スイッチを押すと、元に戻ります。
 p.109 「省電力状態からの復帰方法」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。

 p.31 「ディスプレイを接続する」

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。


 p.78 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなつた。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.198 「セーフモードでの起動」

▶サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

スピーカーの不具合

現象

音が鳴らない。

確認と対処

- 内蔵スピーカーの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

 p.84 「音量の調節」

- 外部スピーカーを接続していて、外部スピーカーから音が出ない場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか確認してください。外部スピーカーのスイッチが入っているか、ボリュームの調節は適切かも確認してください。

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- 応答のないソフトウェアを強制終了してから本機を再起動してください。



p.56 「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要なとされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブまたはディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerを使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処


- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピューターを保護するための設定が購入時にされています。HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。Windowsメールの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。

 p.98 「ファイアウォール」


詳細はソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象


「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- マニュアルびゅーわのインストールを行ってください。

 p.164 「マニュアルびゅーわのインストール」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。


 p.210 「電子マニュアルのダウンロード」

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書の手順は、 p.18 「本製品の仕様とカスタマイズ」に記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを光ディスクドライブにセットして再起動をしても、「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。



p.134 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」





システム診断ツールを使う

ここでは、「システム診断ツール」について説明します。

システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。システム診断ツールは、本機に添付の「リカバリツールCD」に収録されています。

▶システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
Windowsが起動できないときは、 +  +  を押して、コンピューターを再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsの機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

本機が起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F5** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3 「Windowsブートマネージャ」が表示されたら、**F8** を押します。
- 4 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合への対処を行ってください。

▶システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。

復元ポイントを指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して[次へ] をクリックし、ポイントを選択して[次へ] をクリックします。

- 4** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 5** 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 6** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

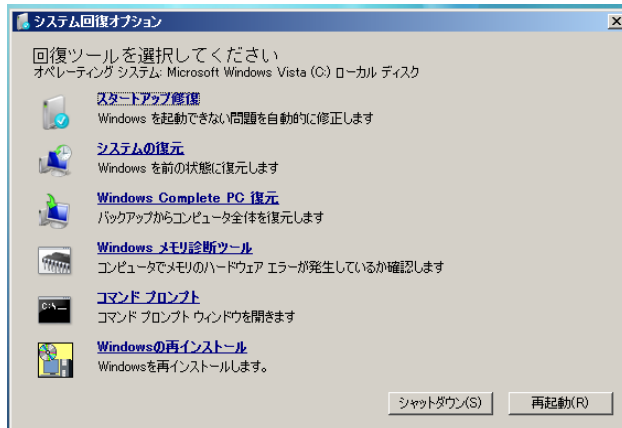
- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。
- 4** 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて、[作成] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 6** 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶ Windows回復環境 (Windows RE) を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

- **スタートアップ修復**
Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。
- **システムの復元**
コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。
- **Windows Complete PC復元**
バックアップしてあったデータを使用してコンピューター全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。
- **Windowsメモリ診断ツール**
メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。
- **コマンドプロンプト**
コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 2 「回復オプションにアクセスするには・・・」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。


手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F5** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3 「Windowsブートマネージャ」が表示されたら、**F8** を押します。
- 4 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、**↵** を押します。
- 5 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 6 「回復オプションにアクセスするには・・・」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 7 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。

DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら  をクリックし、画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックして、コンピューターを再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処法
CPU temperature too high	CPU が高温になっています。コンピューターの電源を切り、コンピューター内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU FAN rotating lower than 500rpm!!!	CPUファンが正常に動作していません。コンピューターの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU over voltage error	CPU の電源電圧が異常です。コンピューターの電源を切り、コンピューター内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	206
「データのバックアップ」	207
「バックアップCDの作成」	208
「電子マニュアルのダウンロード」	210
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	211
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	212
「リチウム電池の交換」	220
「CMOS RAMの初期化」	223
「コンピューターを廃棄するときは」	225
「機能仕様一覧」	227

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。


キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアスプレーで吹き飛ばしてください。

 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく安全に使う！」項目の「Windowsシステム」



<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

バックアップCDの作成

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。

HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万々に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDはリカバリツールを使用して作成します。

バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。



- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。

- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分かかります。



<イメージ>

項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバーのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。


- 5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

ここでは、本体ドライバーのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

- 1** 作成した本体ドライバーのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可]をクリックします。
ソフトウェアによっては、[続行]をクリックします。
- 4** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。
本体ドライバー以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、 p.150 「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピューターや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくした場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを削除した場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポート」－「ダウンロード」－「マニュアル」



製造番号を入力して検索

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見えることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポート」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバー
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』(別冊) をご覧ください。



制限

TPM のセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備

TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

BIOSの設定値を次のように変更します。

「Security」メニュー画面－「Security Settings」

TPM Function : Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」(無効)に設定されています。



p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域(ドライブ)の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域(ドライブ)を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する(概要)

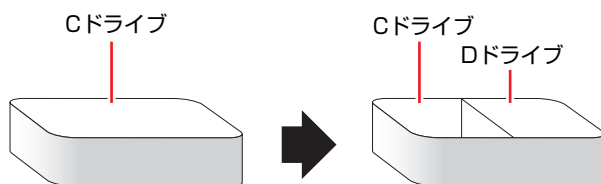
HDD領域(ドライブ)の分割

HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割したひとつひとつを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例: 1つのHDD領域(Cドライブ)を、2つのHDD領域(CドライブとDドライブ)に分割します。



参考

消去禁止領域とBitLocker領域

HDD領域には、「消去禁止領域」と「BitLocker領域(Windows Vista Ultimateのみ)」が作成されています。

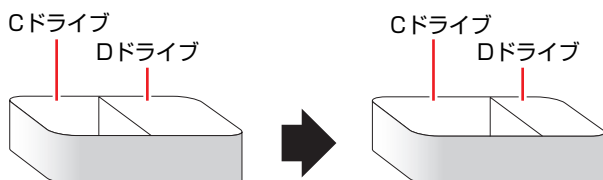
「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境(Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

HDD領域(ドライブ)のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ(容量)を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例: Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

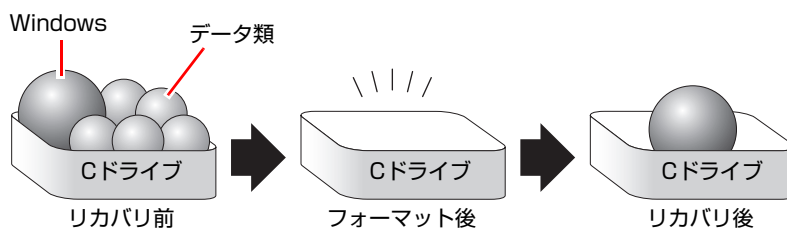
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

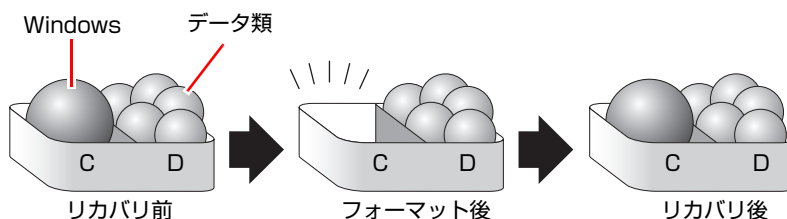
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。



制限


HDD が分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。


Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。


Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.216 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

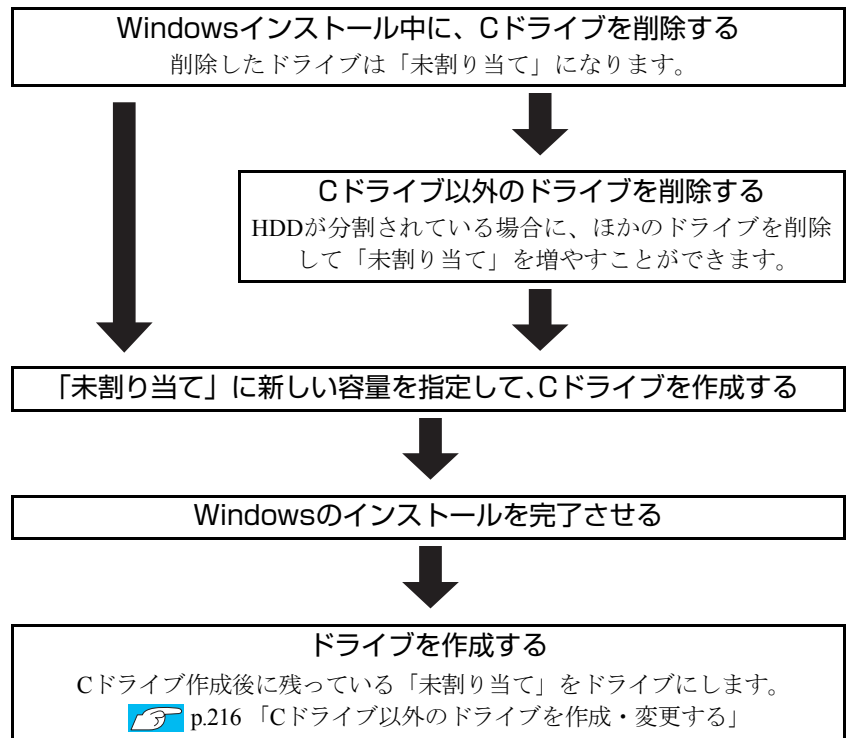


ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

 p.207 「データのバックアップ」


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業は  p.215 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。



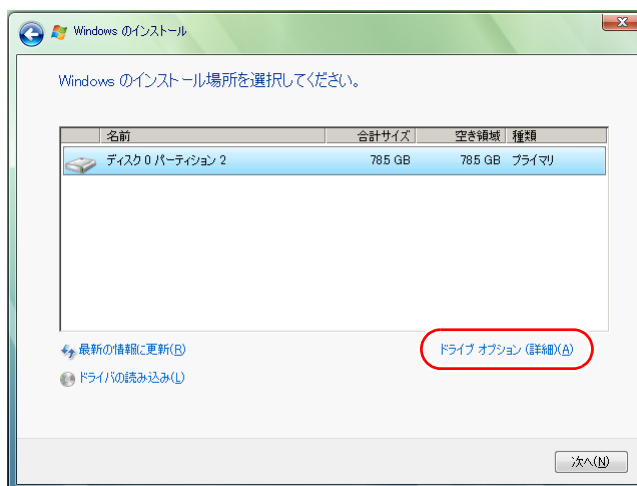
Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.154 「Windowsのインストール」の手順9を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

<p.156 「Windows Vistaのインストール」の手順9の読み替え>

1 「ドライブオプション (詳細)」をクリックします。



2 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。

Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」(Cドライブ)を選択します。

3 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。

削除したパーティション (Cドライブ) が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割する場合>

(1) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やす場合>

(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。

Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション2」(BitLocker)を削除しないでください。


(2) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。
Cドライブには、40GB（40000MB）程度を割り当てることをおすすめします。

6 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、「次へ」をクリックします。

Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」（Cドライブ）を選択します。

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。


続いて、 p.156 「Windows Vistaのインストール」手順10に進みます。

手順10の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。次のような場合にご覧ください。

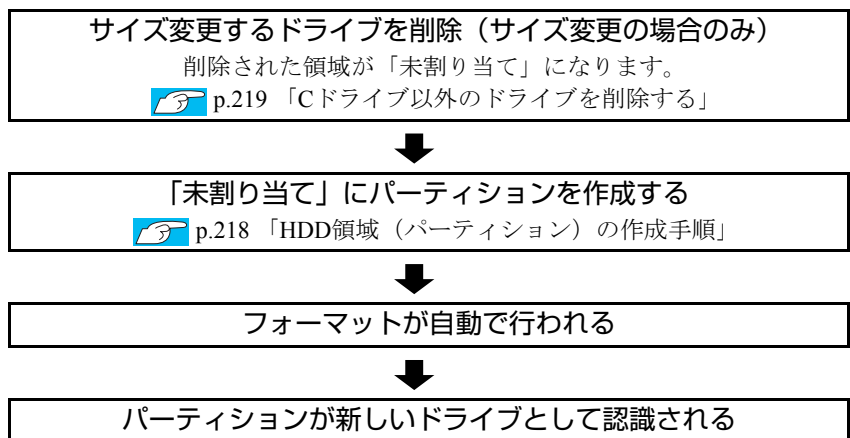
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、 p.213 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は  p.218 「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

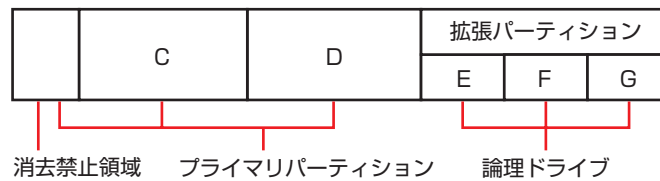


パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。消去禁止領域やBitLocker領域もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- Windows Vista Ultimateの場合は、DドライブにBitLocker領域が設定されているため、新たに作成できるのは拡張パーティションのみです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>

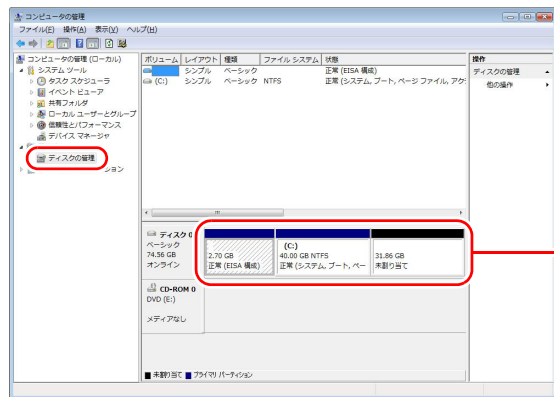


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとメンテナンス」 – 「管理ツール」 – 「コンピュータの管理」 をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」 をクリックします。

HDD領域の状態が表示されます。



HDD領域
の状態

<イメージ>

- 4 パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

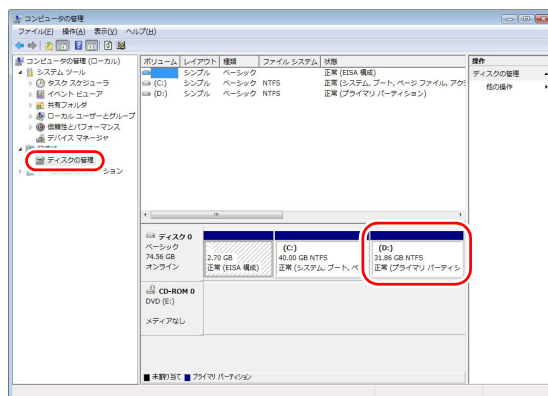
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。


- 1 「スタート」－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。
HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 4 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 5 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.218 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

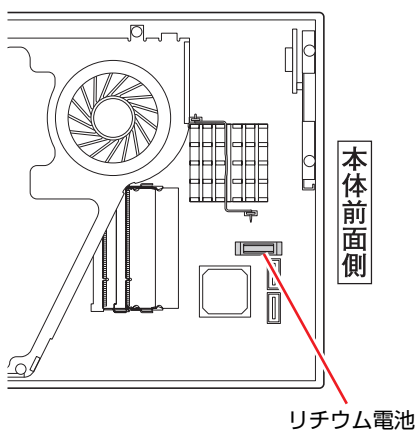


リチウム電池の交換を行うと、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。

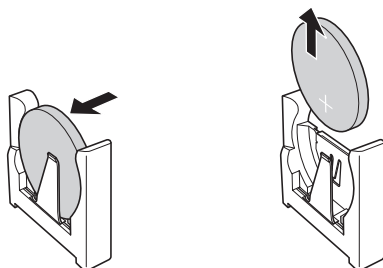
 p.144 「BIOS の設定値」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1 コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**
 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4 リチウム電池の位置を確認します。**
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。

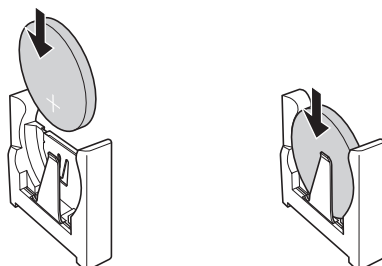


- 5 リチウム電池を抜きます。**
電池ホルダ側から電池の上部を押しながら、上へ引き抜きます。




6 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面（+側）が表側になるようにして、電池ホルダの金具と金具の間に電池をしっかりと押し込みます。



7 本体カバーを取り付けます。

 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」


8 コンピューターを元のように縦置きまたは横置きにします。

9 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

10 コンピューターの電源を入れます。

コンピューターの電源が一瞬入った後に、自動的に再起動します。

11 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press F1 to Run SETUP...」と表示されたら、**F1** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」

12 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。

 p.129 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

13 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。

14 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.144 「BIOSの設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.133 「HDDアクセス制限」

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**

- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** リチウム電池を取り外します。
 p.220 「リチウム電池の交換」手順4、5
- 5** そのまま5秒以上、放置します。
- 6** リチウム電池を取り付けます。
 p.220 「リチウム電池の交換」手順6
- 7** 本体カバーを取り付けます。
 p.116 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 8** コンピューターを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 9** コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
- 10** コンピューターの電源を入れます。
コンピューターの電源が一瞬入った後に、自動的に再起動します。
- 11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press F1 to Run SETUP...」と表示されたら、 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.125 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.129 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。










データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。



<2台のHDDを接続している場合>

1台目のHDDのデータのみが消去されます。2台目のHDDのデータを消去することはできません。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。

- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番		ST120
CPU	プロセッサ	インテル Celeronプロセッサ、インテル Core2 Duo プロセッサ
	ソケット	Socket 479
チップセット		モバイルインテルGM45 Express + ICH9M-E
BIOS		AMI BIOS
メインメモリ	メモリ	PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM) を使用して最大4GBまで搭載可能 (システム上利用できるのは約3GBまで)
	スロット	SODIMMスロット (200ピン) ×2 (同容量2枚1組で使用の場合、デュアルチャネルで動作)
ビデオ機能	コントローラー	モバイルインテル GM45 Express内蔵3Dグラフィックス
	メモリ (メインメモリと共用)	メインメモリ512MB時最大64MB、メインメモリ1GB時最大220MB、 メインメモリ2GB時最大732MB、メインメモリ4GB時最大1259MB
	表示解像度 (最大) *1	1920×1200 (アナログワイドディスプレイ接続時のみ) True Color 32ビット (約1,677万色)
HDD		シリアルATA対応 2.5型HDD (容量、台数は購入時の選択による)
光ディスクドライブ (オプション)		シリアルATA対応スロットイン方式光ディスクドライブ (種類は購入時の選択による)
サウンド機能		インテルハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek製ALC262コントローラー
ネットワーク機能		1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 インテル製82567LMコントローラー
マウス/キーボード (オプション)		購入時の選択による
インターフェース	USB	6 (前面×2、背面×4) : USB2.0
	LAN	1 : RJ-45
	サウンド	前面 : ヘッドフォン出力×1 背面 : ライン入力×1、ライン出力×1、マイク入力×1
	ディスプレイ	2 (HDMI×1、VGA×1) : HDMI 19ピン、VGA ミニ-D-SUB 15ピン
	キーボード	1 : PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1 : PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	シリアル	1 : RS-232準拠 D-SUB 9ピン
ドライブベイ	スリムドライブ	1 (HDD2台搭載時は2.5型HDD用ベイとして使用)
	2.5型HDD専用	1
セキュリティチップ (TPM)		TPM1.2対応Infineon SLB9635TT1.2コントローラー
外形寸法 (幅×奥行×高さ)		75×185×195mm (縦置き時/突起部を除く)
質量		約2.2kg (基本構成時)
電源	ACアダプター *2	入力 : AC100~240V±10% (50/60Hz)、1.5A 出力 : DC 19V、4.74A、90W 質量 : 約450g (電源コード含む)
	白 : ADP-90SB AB 黒 : ADP-90SB	
消費電力		110W (最大) /2.7W (スリープ時) /1.6W (電源OFF時)
動作環境		動作温度 : 10~35℃、動作湿度 : 20~80% (ただし、結露しないこと)

*1 本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度であり、接続するディスプレイの仕様によっては表示できない場合があります。

*2 本機に搭載されている電源コードはAC100V用 (日本仕様) です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

索引

数字

106 PS/2コンパクトキーボード 58

A

ACアダプターコネクタ 26

ACアダプターの接続 36

Adobe Reader 22

 インストール 161

 セットアップ 162

ADSL 91

Advancedメニュー画面 138

AMT機能 110

AMT機能用メモリ 122

B

BIOS 124

BIOS Setupユーティリティ 125

 HDDアクセス制限 133

 起動 125

 起動(Boot)デバイスの順番を変更する 134

 終了 129

 設定値 144

 設定値を元に戻す 129

 操作 126

 パスワードの設定 131

BitLocker 65, 212

Bootメニュー画面 141

C

Caps Lock 60

CATV 91

CDメディア

 読み込み・再生 69

CMOS RAMの初期化 223

COAラベル 21

COM 110

Cドライブ

 分割・変更する 213

Cドライブ以外のドライブ

 削除する 219

 作成・変更する 216

D

DDR 118

DVD VIDEO再生ソフト 70

DVDメディア

 読み込み・再生 69

DVI-Dケーブル 31

E

Exit & Discard Changes 129

Exit & Save Changes 129

Exitメニュー画面 143

F

Fnキー 58, 60

FTTH 91

G

gooスティック 23, 94

 インストール 166

H

HDDアクセス制限 133

HDD設定変更サービス 64

HDDのデータ消去 225

HDD領域

 分割・変更・作成 212

HDD(ハードディスクドライブ) 63

 暗号化 65

 購入時の状態 63

 消去禁止領域 64

不具合	186
HDMI-DVI変換アダプター	31, 75
HDMIコネクタ	26, 31
HDMI接続(ディスプレイ)	31, 75

I

Internet Explorer	92
情報バー	94
追加機能	94
ISDN回線	91
i-フィルター 30日版	23, 100
インストール	162
管理パスワード	101
ユーザー登録	163

J

Java2 Runtime Environment	22
JWord Plugin	23, 94
インストール	166

L

LAN機能	87
LANケーブル	35, 87
接続	35
LANコネクタ	26, 35

M

Mainメニュー画面	136
MS-IME	59

N

Nero 8 Essentials	22
インストール	165
使い方	72
Norton Internet Security 90日版	23
インストール	162

ファイアウォール機能	98
------------------	----

NTFSファイルシステム	63
Num Lock	60

O

OS	15
----------	----

P

PCお役立ち情報	47
Power メニュー画面	139

S

Scroll Lock	60
Securityメニュー画面	142
SODIMM(メモリ)	118
Supervisor Password(管理者パスワード)	131

T

TPM(セキュリティチップ)	211
不具合	183

U

USB機器	73
接続と取り外し	73
使う	73
USBコネクタ	25, 26
User Password(ユーザーパスワード)	131

V

VGAケーブル	31
VGAコネクタ	26, 31

W

Wakeup On LAN	88
Webフィルタリング	100
Webフィルタリングソフトウェア	100

インストール	162
Windows Defender	99
Windows Media Player	84
Windows Update	95
Windows Vista	
インストール	156
セットアップ	37, 40
Windows VistaリカバリDVD	22, 150
Windows.oldフォルダー	186
Windows回復環境 (Windows RE)	48, 64, 200
Windowsの修復	48
Windowsメール	92
初期設定	93
WinDVD	22, 70
インストール	165

あ

アイコン	16
アクセスランプ	25
アップグレードサービス	114
アップデート	
BIOS	124
Windows	95
アナログ接続(ディスプレイ)	31, 75
アナログ電話回線	91
暗号化	65

い

色の設定	76
インストール	
Adobe Reader	161
gooスティック	166
i-フィルター 30日版	162
JWord Plugin	166
Nero 8 Essentials	165
Norton Internet Security 90日版	162

Webフィルタリングソフトウェア	162
Windows Vista	154, 156
WinDVD	165
セキュリティソフトウェア	162
セキュリティチップユーティリティ	168, 211
本体ドライバー	160
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版	167
マニュアルびゅうわ	164
リカバリツール	159
インストール時の不具合	195
インターネット	90
インターネットエクスプローラー	92
インテルAMTドライバー	22
インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジー(AMT) ...	110
インフォメーションメニュー	22, 46

お

オーディオ機器の接続	82
お手入れ	206
オペレーティングシステム	15
音量の調節	84
音量の調節(マイク)	85

か

解像度の設定	76
外部スピーカー	82
書き込み	
光ディスクメディア	70
拡張デスクトップモード	79
拡張パーティション	217
各部の名称と働き	25
カスタマイズ	18
カテゴリの表示	49
かなキーロック	59
かな入力	59
管理者パスワード(BIOS)	131

管理者 (Administrator)	152
管理者 (ユーザーアカウント)	51
管理パスワード	
i-フィルター 30日版	101

き

キーボード	58
接続	34
電源を入れる	61
不具合	189
キーボードコネクタ	26
キーロック表示ランプ	60
記憶装置の不具合	186
起動時の不具合	174
起動順位の変更	134, 141
機能キー	58
機能仕様一覧	227
休止状態	105, 108
有効にする	106
強制終了	56

く

クラシック表示	49
クリック	38, 62
クローンモード	79

け

警告メッセージ	203
ケーブルテレビ	91

こ

高パフォーマンス (電源プラン)	103
コピーコントロールCD	66
困ったときに	173
コントロールパネルの表示	49
コンピューターウイルス	92, 97

コンピューターの廃棄	225
コンピューター本体の不具合	182
起動時	174
コンピューターを購入時の状態にする	155

さ

再インストール	148
必要なメディア	150
再起動	55
再生	
CDメディア	69
DVDメディア	69
音声	84
サウンド機能	82
サウンドコネクタ	25, 26, 82, 83
サウンドドライバー	22
サウンドユーティリティ	85
サウンドレコーダー	84
サポート情報検索	47
サポート・サービスのご案内	21, 172

し

システム診断ツール	23
システム診断の実行	197
システムの拡張	113
システムの復元	198
自動更新	95
シャットダウン (電源を切る)	54
終了 (スリープ)	53
消去禁止領域	22, 23, 64, 212
使用できるマイク	83
省電力	48, 103
移行方法	107
種類	105
不具合	182
復帰方法	109

省電力(電源プラン)	103
情報バー	94
使用・保管時の注意	7
初期設定ツール	42
初期値に戻す(BIOS)	129
シリアルコネクタ	110

す

数値キー	58
スクロール	62
スタートボタン	16
スタートメニュー	16
スピーカー	82
不具合	192
スリープ状態	52, 105

せ

制御キー	58
製造銘板	21
製品保護上の注意	7
セーフモード	198
セキュリティソフトウェア	97
インストール	162
セキュリティ対策	95
セキュリティチップユーティリティ	23
インストール	168, 211
セキュリティチップ(TPM)	211
不具合	183
セキュリティロックスロット	26, 111
接続と取り外し	
USB機器	73
設定値を元に戻す(BIOS)	129
セットアップ	
Adobe Reader	162
Windows Vista	40
前面	25

そ

増設・交換	
メモリ	118
増設・交換後の作業	
メモリ	122
ソフトウェアの不具合	193

た

ダイヤルアップ接続	91
ダウンロード	210
タスクバー	16
縦置き	29
タブ	16
ダブルクリック	62

ち

チップセットドライバー	22
直接入力モード	59

つ

通知領域	16
通風孔	25

て

ディスクの管理	218
ディスプレイ	
接続	31, 75
設定	78
不具合	191
デジタル接続(ディスプレイ)	31, 75
デスクトップ画面	16
デュアルチャンネル	119
電源スイッチ	25
電源設定	103
電源プラン	103
電源ランプ	25

電源を入れる	39, 55
キーボードからの起動	61
電源を切る(シャットダウン)	54
電子マニュアルのダウンロード	210
添付されているソフトウェア	22

と

ドライブイジェクトボタン	25
ドラッグアンドドロップ	62
とらぶる解決ナビ	172
トラブルが解決しなかったら	48
トラブルが発生したら	172
取り外しアイコン	73

な

内蔵モノラルスピーカー	82
ナローバンド	90, 91

に

日本語入力モード	59
日本語を入力する	59
入力装置の不具合	189
入力モードの切り替え	59

ね

ネットワーク	87
接続	35
ネットワークドライバー	22

は

パーティション	217
廃棄(コンピューター)	225
ハイブリッドスリープ	105
背面	26
パスワードの設定(BIOS)	131
バックアップ	63, 155, 207

バックアップCD	
インストール	209
作成	208
バランス(電源プラン)	103
ハングアップ	56

ひ

光ディスクドライブ	25
イジェクトボタン	25
使う	66
不具合	187
光ディスクメディア	
書き込み	70
製品保護上の注意	8
読み込み・再生	69
光ファイバー	91
ビデオドライバー	22
ビデオメモリ	122
表示装置	
設定	78
不具合	191
標準ユーザー(ユーザーアカウント)	51

ふ

ファイアウォール	98
フィッシング詐欺検出機能	99
フォルダーメニュー	50
不具合	
HDD	186
インストール	195
キーボード	189
起動	174
コンピューター本体	174, 182
省電力機能	182
スピーカー	192
セキュリティチップ(TPM)	183

ソフトウェア	193
ディスプレイ	191
光ディスクドライブ	187
マウス	190
メモリ	185
復元ポイントを手動で作成する	199
プライマリパーティション	217
ブロードバンド	90
プロバイダー	90

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	25, 82
--------------------	--------

ほ

ボタン	16
ボリューム	84, 85
本体カバーの脱着	116
本体ドライバーのインストール	160

ま

マイク使用時の音量調節	85
マイク入力コネクタ	26, 83
マウス	62
製品保護上の注意	9
操作	62
使い方	38
不具合	190
マウスコネクタ	26
マウスポインター	38
マカフィーSiteAdvisor Plus 30日版	23
マニュアルダウンロード	210
マニュアルびゅうわ	22, 47
インストール	164

み

右クリック	62
-------------	----

め

メモリ	
仕様	118
増設・交換	118
増設・交換後の作業	122
取り付け・取り外し	119
不具合	185
メモリスロット	114

も

文字キー	58
文字を入力するには	59

ゆ

ユーザーアカウント	50
ユーザーアカウント制御画面	51
ユーザーサポート	47
ユーザー登録	167
i-フィルター 30日版	163
ユーザーパスワード (BIOS)	131

よ

横置き	29
読み込み・再生	
CDメディア	69
DVDメディア	69

ら

ライセンス認証	41
ライティングソフト	71
ライン出力コネクタ	26, 83
ライン入力コネクタ	26, 83
ラッチ	26, 116, 117

り

リカバリ	148
------------	-----

リカバリツール	22
インストール	159
バックアップCDの作成	208
ファイル削除	161
リカバリツールCD	22, 150
リチウム電池の交換	220
リフレッシュレートの設定	78
リモートブート	89

ろ

ローマ字入力	59
録音	
音声	84
音量調節	85
論理ドライブ	217

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

国際エネルギースタープログラムについて



国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、米国特許 (Nos. 5,315,448 and 6,836,549) および知的財産権により保護されています。Macrovision Corporationの認可なしに、この技術を使用することはできません。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

* Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載 (改編して掲載する場合も含む) するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者 (放送事業者や実演家などの隣接権者を含む) の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、ActiveX、Internet Explorer、BitLockerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intelロゴ、Celeron、Intel Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityおよびLiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobeロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

The logo graphic consists of a blue horizontal bar with three white diagonal stripes on the right side, positioned above the text.

shop.epson.jp